

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

< 第14週 > A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、第14週では著減したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4-6

< 風しんおよび先天性風しん症候群 >
それぞれの発生状況と予防接種について



病原体情報
P.7-8

患者から分離・検出された病原体報告 - 冬季の感染性胃腸炎関連ウイルス 2003/04シーズン / インフルエンザウイルス 2003/04シーズン



速報

< 今週は該当記事はありません >



海外感染症情報
P.9-11

ブラジルのPará州でコウモリが媒介したヒトの狂犬病 / インドネシアでのデング熱の流行 / カナダで鳥インフルエンザA(H7)のヒトへの感染 / チャドでの髄膜炎流行 / 中央アフリカ共和国での髄膜炎流行



感染症の話
P.12-17

< A型肝炎 >
A型肝炎ウイルス(HAV)による疾患であり、一過性の急性肝炎が主症状である



読者のコーナー
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(14週)
P.18-24



14週のデータ
P.25-34



発生動向総覧

*「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(11月5日施行)により、対象疾患、分類が一部変更されました(2003年第43号「速報」参照)

第14週コメント 4月8日集計分

全数報告の感染症

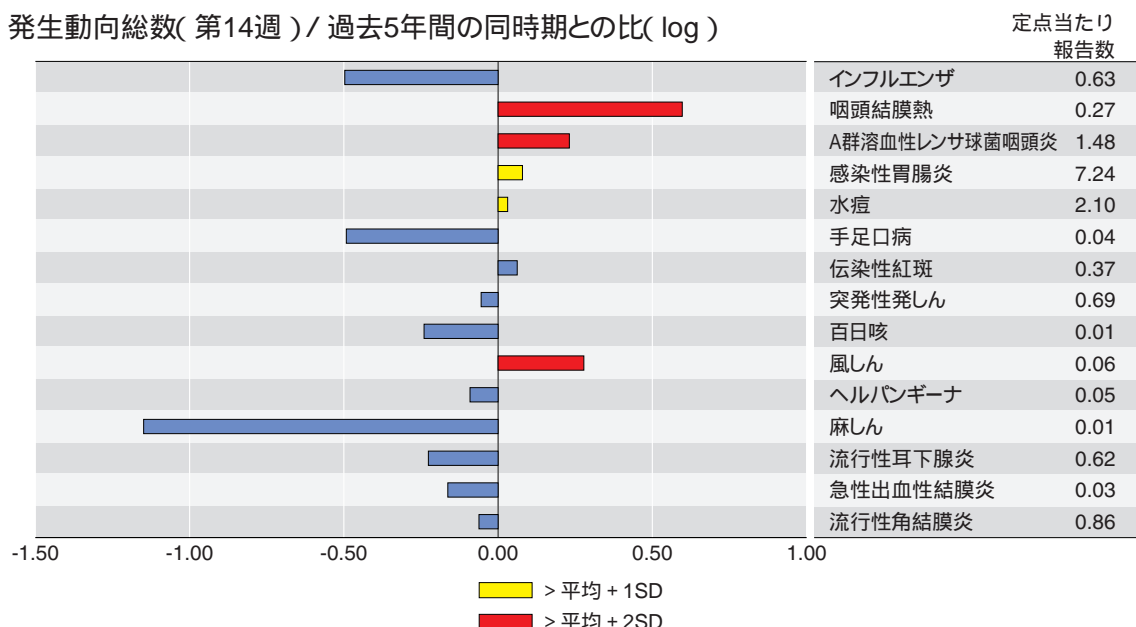
注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が、集計の期日以降に届くこともあります。それらについては、発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。宜しく御理解下さい。

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ 1例(疑似症)
細菌性赤痢 10例(推定感染地域: 国内1例、インド5例、インドネシア3例、疑似症1例)
腸チフス 1例(推定感染地域: 国内)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症3例(いずれも有症者)
血清型・毒素型: いずれもO157 VT2
年齢: 10歳未満(2例)、30代(1例)
- 4類感染症: つつが虫病 1例(鹿児島県)
レジオネラ症 1例(56歳)
A型肝炎 1例(推定感染地域: ペルー/ボリビア)
- 5類感染症: アメーバ赤痢 6例(推定感染地域: 国内3例、台湾1例、不明2例)
ウイルス性肝炎 2例 B型1例(推定感染経路: 性的接触)
C型1例(推定感染経路: 針刺し事故)
クロイツフェルト・ヤコブ病 2例(いずれも孤発性)
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例(46歳)
後天性免疫不全症候群 8例(無症候6例、AIDS 1例、その他1例)
推定感染経路: いずれも性的接触(異性間5例、同性間3例)
推定感染地域: 国内5例、タイ2例、米国1例
ジアルジア症 4例(推定感染地域: インド3例、台湾1例(上記のアメーバ赤痢の症例で重複感染))
梅毒 4例(早期顕症I期1例、早期顕症II期2例、無症候1例)
急性脳炎 2例(EBウイルス1例(27歳)、病原体不明1例(9歳))
(補)他にクロイツフェルト・ヤコブ病1例の報告があったが、削除予定。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数(第14週)/過去5年間の同時期との比(log)



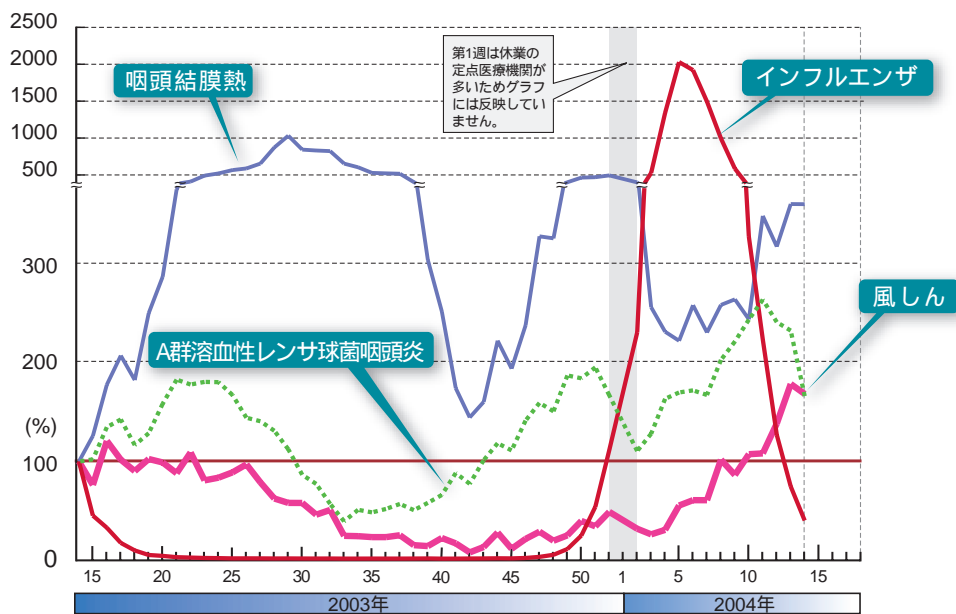
当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

インフルエンザ定点報告疾患：インフルエンザの定点当たり報告数は第5週をピークに減少し、第14週も減少した。都道府県別では大分県(3.3)、青森県(2.3)、山口県(1.8)が多い。

小児科定点報告疾患：咽頭結膜熱の定点当たり報告数は前週と同値で、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多く、都道府県別では宮崎県(1.3)、富山県(1.2)、福井県(0.9)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、第8週から過去10年間で最高の値を更新し続けた後、第11週をピークに減少した。第14週も著減したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、都道府県別では新潟県(4.3)、福井県(3.4)、鳥取県(3.4)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では福井県(20.3)、富山県(13.9)が多い。水痘の定点当たり報告数は第2週に過去10年間で最高の値となった後減少し、第5週からはほぼ横ばいで推移している。過去5年間と比較してやや多く、都道府県別では宮崎県(5.4)、沖縄県(3.6)が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は第9週から緩やかに増加しており、第14週も微増した。都道府県別では新潟県(1.2)、山形県(1.1)が多い。風しんの定点当たり報告数は前週と同値で、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、都道府県別では群馬県(0.7)、大分県(0.5)、鹿児島県(0.3)が多い(「注目すべき感染症」参照)。RSウイルス感染症の報告数は30都道府県から合計56例であった。

基幹定点報告疾患：マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少して0.12で、都道府県別では山形県(0.8)、奈良県(0.7)が多い。

主要疾患の過去1年間の週別定点当たり報告数の動き(第14週)



2003年第14週の定点当たり報告数を100%として各週の報告数値を換算し、過去1年間の増減を表している。



注目すべき感染症

風しんおよび先天性風しん症候群

< 風しんの発生状況 >

小児科定点医療機関から報告される全国の風しん患者数は、ここ数年かなり少なく推移している。しかしながら、本年の定点当たり報告数を都道府県別にみると、群馬県、大分県、鹿児島県、宮城県、埼玉県など報告数の多い都道府県がある。これらの増加に伴って全国値も増加しており、第13週の定点当たり報告数は、感染症法施行(1999年4月)以降の最高値となった。第14週の全国約3,000の小児科定点医療機関からの報告数は183人(第13週194人)で、定点当たり報告数は0.06である。

患者の年齢群を過去5年間の報告と比較すると、本年は昨年までに比べて、10～14歳および20歳以上の割合が明らかに大きくなっている(図1)。これらの報告は小児科定点からの報告であるので、実際の成人の症例はより多い可能性がある。また、患者の性別の比較では、幼児、学童では明確な差は見られないが、15歳以上(特に20歳以上)では男性の割合がかなり大きい(図2)。この理由としては、予防接種法に基づく風しん予防接種の対象者が、1977年8月から1995年3月までは女子中学生のみであったことや、1995年4月の予防接種法改正に伴う経過措置対象者〔1979年4月2日～1987年10月1生まれ(現在16～25歳)の男女〕においても、男性の接種率が低かったことの影響と考えられる。2002年度感染症流行予測調査による男性の接種率は、15～19歳67.2%(女性83.5%)、20～24歳54.8%(73.8%)、25～29歳50.0%(80.4%)、30～34歳40.9%(87.7%)、35～39歳57.6%(75.0%)で、明らかな性差が認められる。

図1. 風しん患者の年齢分布 (1999～2004年第14週)

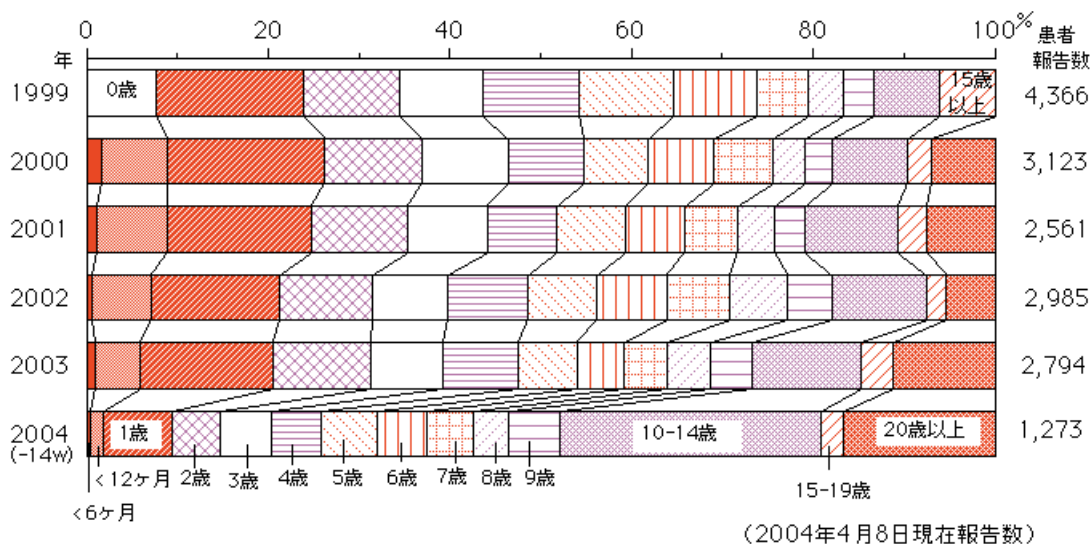
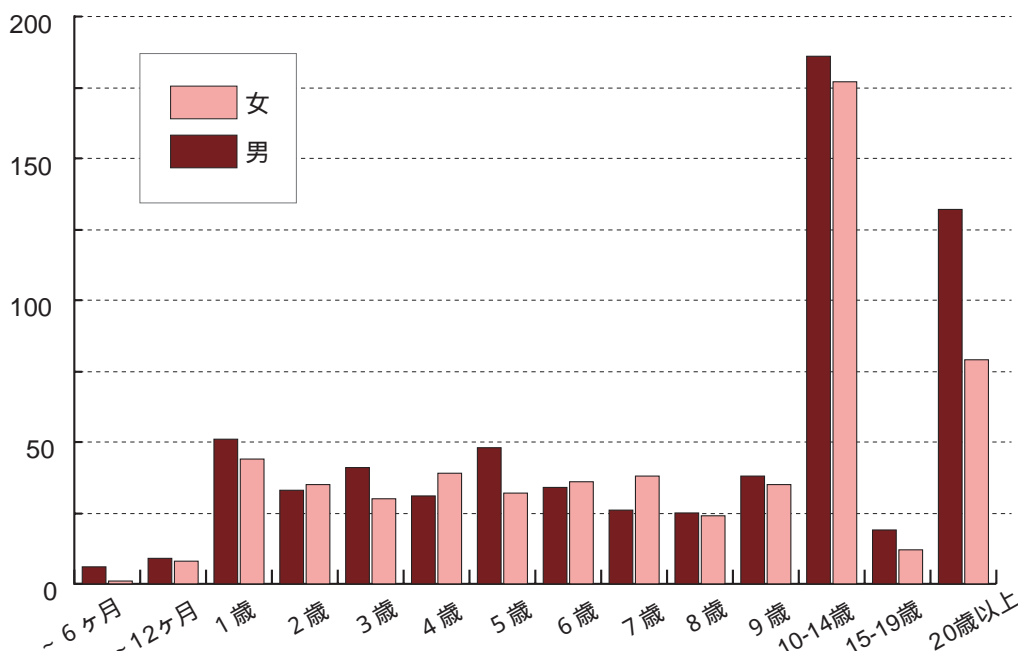


図2. 風しん患者の年齢群別・性別報告数 (2004年第1~14週)



< 先天性風しん症候群の発生状況 >

ワクチン未接種で、罹患したこともなく風しんに対する免疫のない女性が、妊娠初期に風しんに罹患するとウイルスが胎児にも感染し、出生児に先天性風しん症候群 (congenital rubella syndrome : CRS) を起こすことがある。先天性風しん症候群は、感音性難聴、白内障または緑内障、心疾患が3主徴で通常、妊娠16週までの感染で起こることがほとんどである。胎児罹患率は妊娠初期ほど高く、妊娠8週を超えると妊婦が風しんに罹患したとしても胎児が発症する率は低くなる(発症した場合も、難聴以外の症状は稀である)と考えられている。

CRSは1999年4月の感染症法の施行により全数把握疾患となった。1999年には報告がなく、その後2003年までは各年1例の報告であったが、今年はこれまでに2例の報告があった。CRS症例の母親の風しんワクチン接種歴が得られた3例では、全て未接種であった。母親の罹患時期が明らかなものが2例、不明のものが4例で、その4例では出産の7~10カ月前に母親が風しんに感染したと仮定し、この6例の母親の推定感染時期の居住地における風しん流行状況を解析した。その結果、定点当たり報告数は6例のうち4例で1以上であり、1例で0.1~0.4であったが、残り1例では散発事例の報告のみで、定点当たり報告数は0.05に達していなかった。

CRSの予防のためには、小児科ばかりでなく、特に妊婦や妊娠年齢の女性の管理を行う産科や婦人科、内科においても、地域での風しんの流行状況などに細心の注意を払う必要がある。

< 風しん予防接種について >

風しんはワクチン(生ワクチン)で予防できる疾患である。風しん予防接種の最も重要な目的は、風しんの罹患防止に加え、CRSの発生防止にある。近年のCRS報告症例の解析から、大きな流行の時だけでなく、散発症例発生の際の母親の感染によりCRSが発生していると考えられ、地域流行の大きさだけにとらわれることなく、非流行時から妊娠可能年齢の女性の積極的な予防接種が必要であろう。さらに、罹患を防止するためには、流行を防止することが必要であり、定期接種の対象者だけでなく、当時の経過措置の対象年齢層を中心に、男女ともに免疫のない人々は任意接種を受けることが望まれる。

なお、妊娠可能な女性については、今まで風しん予防接種によりCRSおよびその他の異常が生じたとの報告はないが、中絶時の胎盤などからウイルスが分離された例もあり、妊娠中に接種しないことはもちろん、接種後2カ月間の避妊が必要とされている。

なお、厚生労働省は、本年4月9日に都道府県に対して、先天性風しん症候群の発生防止について注意喚起の通知を发出了。

健感発第0409001号
平成16年4月9日

各都道府県衛生主管部(局)長 殿

厚生労働省健康局結核感染症課長

先天性風しん症候群の発生防止について

感染症発生動向調査において、今年になって一部の地域(鹿児島県、群馬県、大分県、宮城県、埼玉県)において患者が数多く発生している状況にある。過去5年間には年間0 ~ 1例の発生件数であった先天性風しん症候群の患児が、今年は3月7日の時点ですでに2件報告されている。また、日本産婦人科医会及び国立感染症研究所等には、産婦人科医から妊娠中の風しん罹患事例の相談が寄せられており、先天性風しん症候群患者の発生が懸念されている。

これから妊娠する予定のある女性であって風しん罹患歴又は風しんワクチン接種歴のないものは、予防接種を受けることにより先天性風しん症候群の発生を防止することができることから、既に「風しん予防接種の重要性の周知について」(平成15年11月18日付け健感発第1118001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知)により予防接種の重要性の周知を図ってきたところであるが、今年の風しんの流行状況等を踏まえ、改めて、適切な注意喚起及び情報提供等に当たられるようご指導方お願いする。



病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2004年4月9日現在報告分)

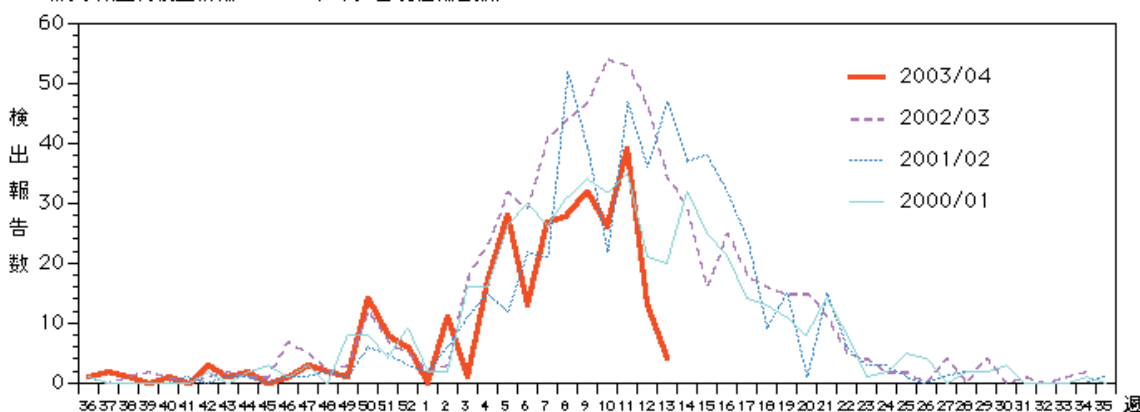
冬季の感染性胃腸炎関連ウイルス 2003/04シーズン

ロタウイルスは、昨シーズン(2002/03シーズン)と同様に第50週に小さなピーク(14件)を形成した後、2004年第4週から増加している。第8週から第13週までの検出数は28、32、26、39、13、4である。報告のほとんどはA群で、これまでにA群は28都府県から計276件報告されている。このうち岡山県と大阪府で検出された各1件の血清型はG3であった。地域別では高知県35、愛媛県34、香川県33、大阪府24、奈良県19など、四国、近畿地方からの報告が多い。この他に群不明が9件(福岡県3、東京都2、宮城県、三重県、和歌山県、愛媛県各1)報告されている。ほとんどが5歳以下の小児からの検出である。

小型球形ウイルス(SRSV)は、第50週を最大のピーク(131件)として、年明け以降は減少している。報告のほとんどはノロウイルスgenogroup(G)IIであり、ノロウイルスGIIはこれまでに秋田県86、岡山県78、愛媛県74、岩手県69など、33都府県から計857件報告されている。ノロウイルスGIIは16都府県から50件の報告で、秋田県11、山口県8からの報告が多い。サポウイルスの報告は35件で、ほとんどが愛媛県(27件)からの報告である。この他に、ノロウイルスG不明が149件、電顕のみによる検出が19件報告されている。

週別ロタウイルスの検出報告数、過去3シーズンとの比較(2000/01～2003/04)

(病原微生物検出情報: 2004年4月9日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

インフルエンザウイルス 2003/04シーズン

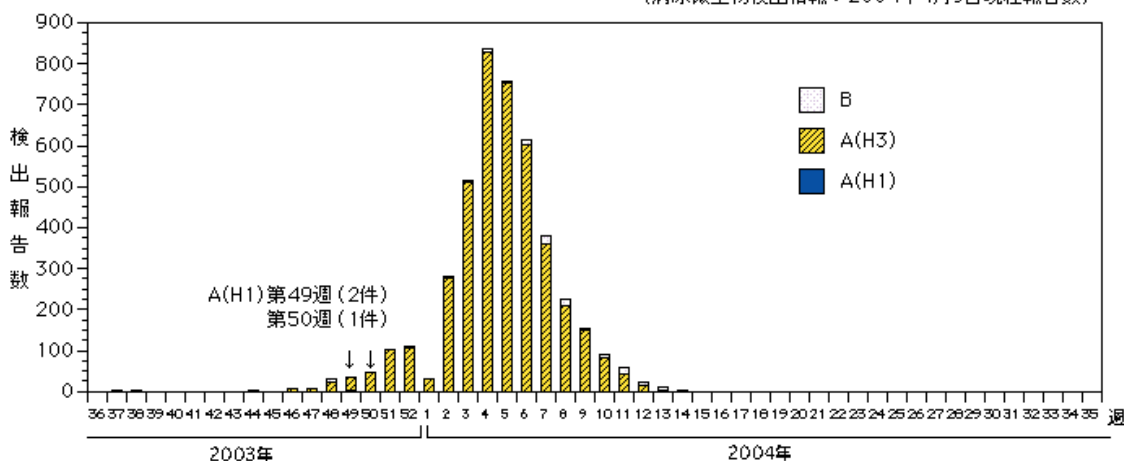
AH3型ウイルスの分離・検出報告がほとんどで、計4,197件(PCRのみの検出38件を含む)が報告されている。このうちN型別された329件はすべてN2であった。今シーズンは、2004年第1週まではさほど分離・検出数は多くなかったが、第2週以後大きく増加し、昨シーズン(2002/03シーズン)と同時期の第4週にピーク(829件)を示している。第5週以降は減少し、第8週から第14週までの分離・検出数は209、151、81、44、14、4、1である。新たに群馬県からも検出が報告され、全47都道府県から分離・検出が報告された。

B型ウイルスの分離・検出報告は計127件(PCRのみの検出1件を含む)で、新たに高知県から1件の分離報告があり、これまでに全国33道府県から報告されている。第47週以降は少ないながらも毎週分離されており、第8週から第14週までの週別分離・検出数は17、2、8、14、7、6、4である。北海道26、静岡県15、福井県9、福岡県9、千葉県、兵庫県各7などからの報告が多い。

AH1型ウイルスの分離報告は計3件で、第49週に分離された長野県の1件(IDWR2003年第51号速報記事参照)と、埼玉県で分離された2件(第49週、第50週各1)の報告である。長野県の1件と埼玉県の2件中1件はN型別され、ともにN1であった。

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2003/04シーズン

(病原微生物検出情報：2004年4月9日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。





海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

ブラジルのPará州でコウモリが媒介したヒトの狂犬病

PAHO EID Weekly 2004年4月2日

【背景】 狂犬病は、哺乳類により感染伝播する急性のウイルス性疾患である。狂犬病には、主に都市型と野生型の2種類の感染サイクルがある。重要なのは、致死率が100%であることである。しかしながら、ヒトへの感染源を撲滅する効果的な予防手段により、都市型感染サイクルは撲滅が可能である。

都市型感染サイクルの主要な感染源は、イヌとネコである。コウモリは野生型サイクルでの主な感染源である。

ブラジルでは1986年から2003年の間に、675名のヒトの狂犬病が報告された。そのほとんどの患者は北東部(59%)と北部(21%)の地域で発生した。1986年から1994年の間に患者数が著しく減少し、それが現在まで続いている(2003年のデータ)。平均の患者数は23名である。同期間に主な感染源となった動物はイヌで、全てのヒト患者の感染源の80%を占めており、次がコウモリ(8.2%)であった。過去のデータで、ヒトの狂犬病の感染源となった動物種別にみると、同期間にコウモリにより感染したヒトの患者数は、全国でも4名を超えなかった。

2003年には17名のヒトの狂犬病が報告され、14名がイヌから、3名がコウモリからであった。2004年は現在までに、これらの動物による感染患者はBahia, Maranhão, Espírito Santoで発生している。

【Pará州Portel市での現在の状況】 Pará州の保健局(SES-PA)と健康調査局(SVS)は、2004年3月中旬にPortel市でコウモリが媒介して発生したヒトの狂犬病流行を報告した。最初の患者が発生したのは3月4日であり、最後の患者は3月26日に発生した。SESとSVSの報告の後、疫学調査が開始された。5例の死亡者で前もって確定診断のための検体採取が行われていた。

疑い患者全ての診断が確定されれば、診断確定患者数は16例となり、今回の流行は、これまでに同国で報告されたコウモリが媒介したヒトの狂犬病の流行としては最も大きなものとなる。市の保健当局、SES-PA、SVSおよび州農業局は、今回の極めてまれな出来事の原因を調査している。コウモリの襲撃は、主に2003年の9月と10月に発生した。このような出来事はAcuti Pereira川流域の過疎の地域でしばしば報告され、感染した住民はこの地域に居住していた。初期の調査結果によると、流行地域には複数のコウモリのコロニーの存在が示されている。

現在までの患者数(死亡者数)

確定診断例	疑い例	計
5 (5)	11 (8)	16 (13)

インドネシアでのデング熱の流行

WHO/CSR 2004年4月8日 - 更新3

2004年1月1日～4月4日にインドネシア保健省に、入院患者を中心にデング熱患者52,013名と死亡者603名が登録された。2004年全体での致死率、特にジャカルタでの致死率は過去数年間のそれより低値である。

デング熱はインドネシアでは毎年発生するが、今年は全国32州中少なくとも12州で患者数が異常に多数となっている。2003年同期と比較すると患者数は倍増している。Jawa Barat, Jawa Tengah, およびJawa Timurを含むジャワ島内の各州では特に患者数が多く、ジャカルタ特別市からは全体の35%に当たる患者が報告された。インドネシアでは、全人口2億1,200万人の半数以上がジャワ島に居住している。

3月の1カ月間の報告患者数は、2004年1,2月に比べ増加が続いているが、各州からの週報によれば、流行は3月半ばにはジャカルタ特別市、バリ、およびNusa Tenggara Barat州ではピークに達したようである。それらの州ほど報告患者数の多くない各州については、デング熱活動性はパプア島のMerauke州およびSorong州のような一部ではピークに達したが、Palembang市、およびAceh特別州などの別の地域では上昇中である。デングウイルス3型が優勢な感染循環株であるが、ジャカルタ特別市の患者から採取した検体では、血清型4型、2型および1型株も確認された。

保健省は、適切な対応を指示できるよう、全州から寄せられるデータを更新し解析するため、迅速対応サーベイランスチームを設置した。同国政府は、経済的に余裕のないデング熱患者に無料で医療を提供している。

地区保健当局は媒介蚊対策活動を強化し、現場でのボウフラ調査官の助力を得て、デング熱媒介蚊であるネッタシマカの発生地となる不必要な容器の除去のため、地域共同体を動員している。WHOは検査室診断で保健省を支援している。

カナダで鳥インフルエンザA(H7)のヒトへの感染

WHO/CSR 2004年4月5日

ブリティッシュコロンビア州で、2004年3月13～14日に感染した家禽の処分に参加した担当者から、鳥インフルエンザA(H7)ウイルス流行での初のヒト感染患者が発生した。3月13日、患者は偶然に眼への曝露を受けた可能性がある。3月16日、患者は結膜炎と鼻汁を報告した。3月18日に、インフルエンザウイルスに効果のある抗ウイルス薬であるオセルタミビルによる治療が開始された。3月30日、ヘルスカナダは、この患者の病因は鳥インフルエンザA(H7)ウイルスであると結論を出し、3月31日にWHOに通知した。患者はすでに完全に快復している。

4月2日、WHOはヘルスカナダから、ブリティッシュコロンビア州で鳥インフルエンザA(H7)ウイルスに感染した2例目の養鶏場作業員の届け出を受けた。この作業員は感染した家禽と密接な接触があった後、3月25日に結膜炎を発症した。この患者はオセルタミビルによって3月25日から治療され、症状は消失した。

チャドでの髄膜炎流行

WHO/CSR 2004年4月8日

2004年4月4日現在、WHOはIriba地方での19名の患者と4名の死亡者発生の報告を受けた。保健省は流行対策を実施しており、また、この地域でのワクチンキャンペーンを予定している。7検体からA群髄膜炎菌が検出された。

中央アフリカ共和国での髄膜炎流行

WHO/CSR 2004年4月8日

2004年3月31日現在、WHOは中央アフリカ共和国での43名の患者と7名の死亡者発生の報告を受けた。Nana Boguila(患者39名、死亡5名)とZere(患者4名、死亡2名)の2地域で流行閾値を越えた。パスツール研究所で行われた検査により、Nana Bougila地方で得られた2検体からA群髄膜炎菌が検出された。



感染症の話

A型肝炎

A型肝炎はA型肝炎ウイルス(HAV)感染による疾患である。一過性の急性肝炎が主症状であり、治癒後に強い免疫が残される。HAVは糞便中に排泄され、糞口感染で伝播するので、患者の発生は衛生環境に影響されやすい。A型肝炎は発展途上国では蔓延しているが、先進国では上下水道などの整備により感染者は激減している。しかしながら、HAV感染の少ない状態が長期間継続すると抗体陰性者が増加する。日本では50歳以下での抗体陽性者は極めて少ない。最近の日本のA型肝炎では乳幼児、学童の患者は殆ど見られず、患者の高年齢化が顕著である。また、大規模な集団発生はみられないが、飲食店を介した感染や、海外渡航者の感染がみられる。ますます盛んになる国際交流、発展途上国からの輸入食料品の増加など、A型肝炎の感染予防対策は社会的に重要な問題として認識されるようになってきた。国産の不活化ワクチンが製造認可され、1995年から医療現場で使われている。

疫学

HAVは全世界に分布している。衛生環境が劣悪な地域では乳幼児期の感染が主であり、こうした地域では肝炎発生率が低く、流行もない。上下水道などの整備により、糞口感染性疾患は発生の様相に大きな変化が生じるが、A型肝炎も例外ではない。まず、都市部を中心に感染率が低下し、感受性者が蓄積されて流行が認められるようになる。1988年に中国上海市で発生した約30万例の大流行は好例である。生活環境がさらに整備されると大流行の発生が止まる。A型肝炎の大規模な流行発生は日本では終焉した。

1973、1984、1994年の血清検体で、一般日本人の年齢別抗体保有状況が調べられた。調査間隔年齢に相当して抗体保有率曲線が高年齢層にシフトしており、日本では過去30年以上の期間、HAV感染が少ないことが明らかにされた(IASR病原微生物検出情報1997年Vol.18、p10、特集「A型肝炎」図4参照)。抗体保有率が非常に低下したために、施設内の集団発生や家族内感染への注意も必要である。

感染症発生動向調査での2003年10月までの集計から、最近の日本のA型肝炎発生状況の特徴は以下のように集約される。1)年間500人前後の患者報告数がある(図1)。2)主要な感染源は牡蠣やなんらかの飲食物(おそらく海産物)によるものである(図2)。3)罹患年齢では乳幼児や学童は稀で、高年齢化が認められる(図3)。子供の感染では症状が軽くてすむが、高齢者では重症化しやすいので注意が必要である。4)患者全体の約1割が海外渡航からの帰国者であり(図4)、殆ど中国、インド、東南アジア地域での感染である(図5)。5)A型肝炎の発生には季節変動がある。日本では秋に少なく、冬から春、初夏にかけての発生が多い(図6)。

図1. ウイルス性肝炎の発生状況、1999～2003年 (感染症発生動向調査報告より)

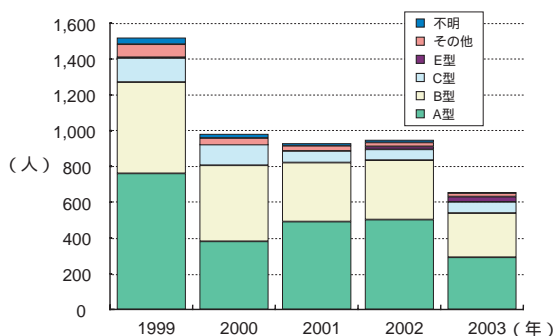


図2. A型肝炎の感染経路
(感染症発生動向調査報告より)

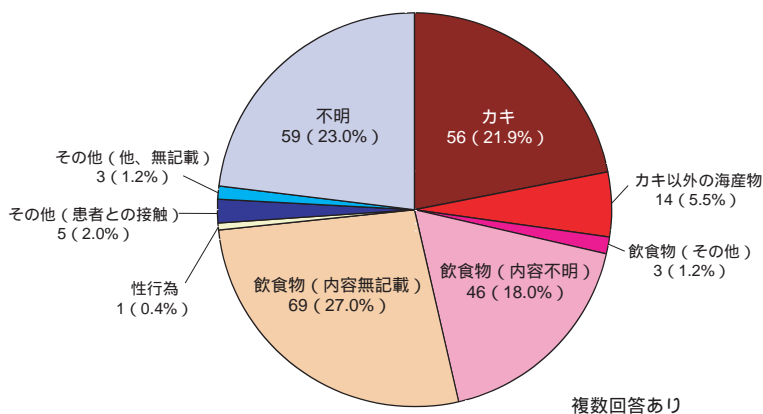


図3. A型肝炎国内感染例の年齢分布
(感染症発生動向調査報告より)

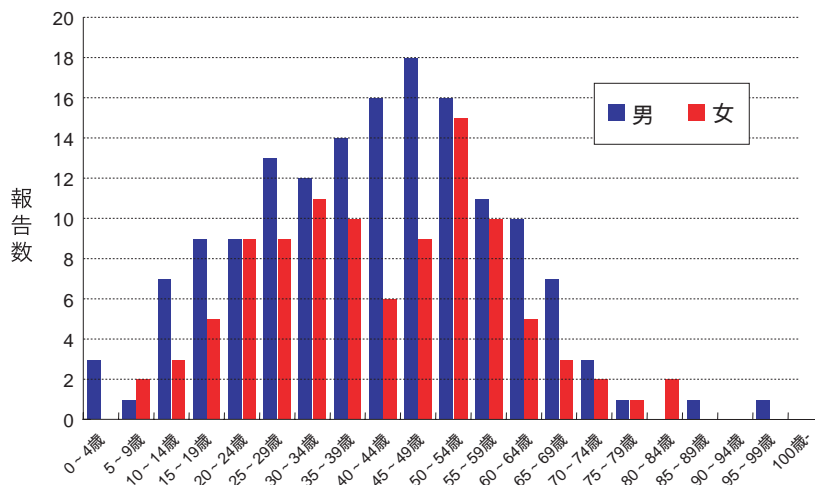


図4. A型肝炎国外感染例の年齢分布
(感染症発生動向調査報告より)

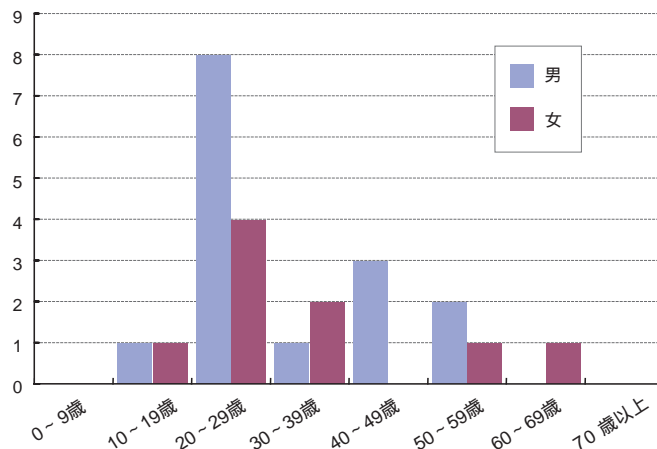


図5. A型肝炎の国外感染地域
(感染症発生動向調査報告より)

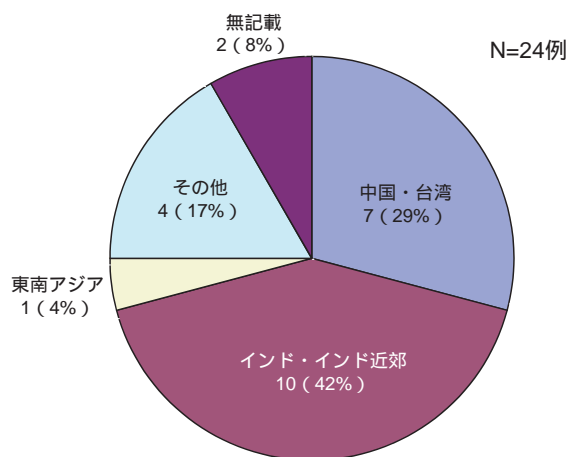
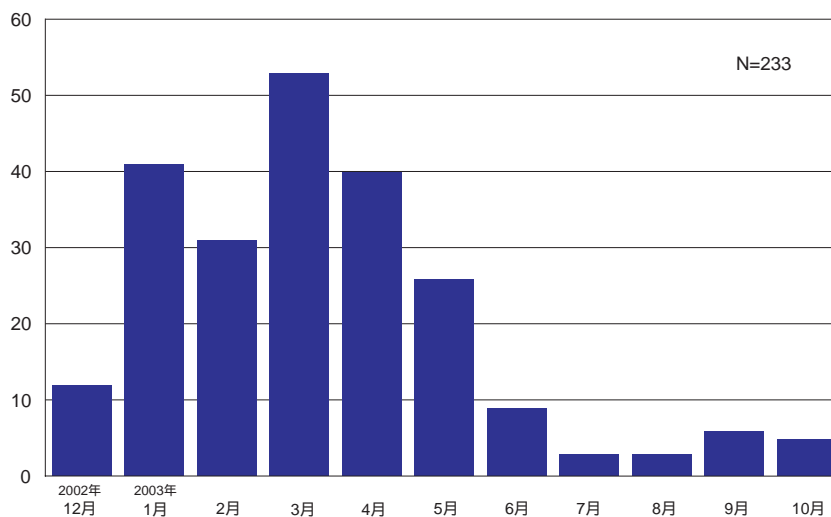


図6. A型肝炎の月別報告数
(感染症発生動向調査報告より)



病原体

HAVはピコルナウイルス科のヘパトウイルス属に所属する。ウイルス粒子は直径27nmの裸の正20面体であり(図7)、ゲノムは5' 末端にVPg蛋白、3' 端にポリA鎖が結合した約7.5kbのプラス鎖RNAである(図8)。HAV粒子の構造と性状、ゲノムの構造と機能、粒子形成などは基本的には他のピコルナウイルスと共通であるが、成熟粒子にVP4が検出されないこと、VP1/2A接合部が切断されないまま粒子形成が進行するなどの特徴がある。A型肝炎ウイルスは発見当初、ピコルナウイルス科のエンテロウイルス属に分類されていたが、塩基配列相同性が極めて低いために、ヘパトウイルス属として独立した。HAVの遺伝子型は7種類に分けられているが、血清型は1種類のみである。

HAVは培養細胞において増殖性であるが、培養細胞を用いた患者糞便検体からのウイルス分離には長期間かかる。また、継代培養により培養細胞に馴化した株でも、増殖速度は他のピコルナウイルスに比較して遅く、一般的に細胞障害効果(CPE)は示さない。特定の細胞にCPEを示す株もあるが、馴化の過程での遺伝子変異によるものである。生物学的に野生株は肝臓に強い親和性を持っているが、他の肝炎ウイルス同様、ウイルスの増殖により細胞を殺すことはない。肝炎は宿主免疫反応を介して起きる。

HAVは酸耐性であり、熱、乾燥などにも強い。エーテルなどの脂溶性物質、界面活性剤、蛋白分解酵素などに耐性であるが、高圧滅菌、UV照射、ホルマリン処理、塩素剤処理などで失活する。また、高度精製HAVは微量の水銀イオンなどにより失活し、抗原活性も失われる。

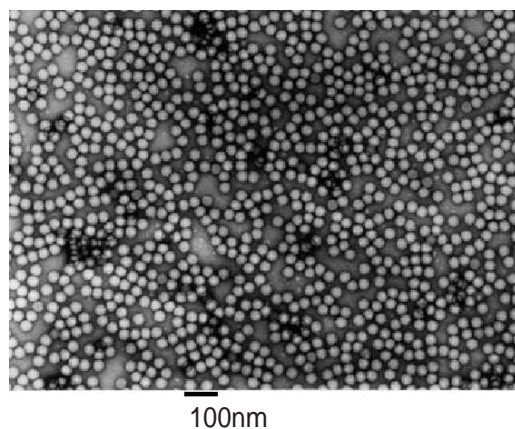


図7. 精製A型肝炎ウイルス(HAV)の電子顕微鏡像

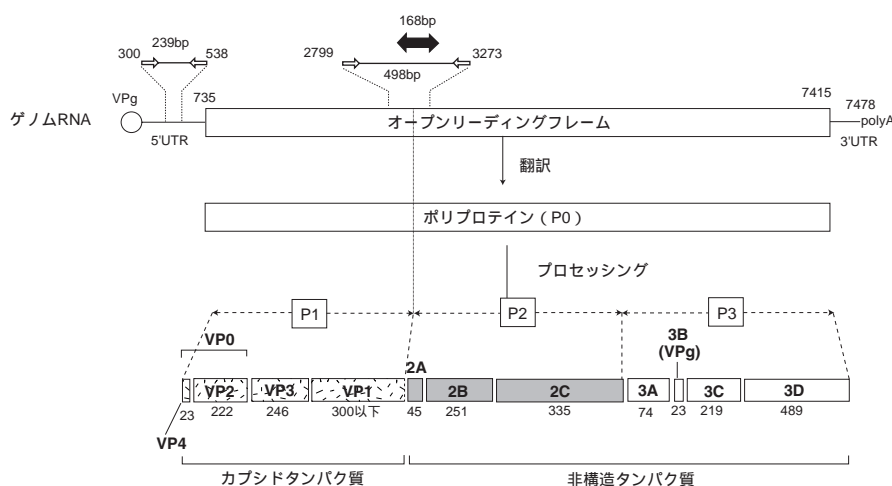


図8. HAVの遺伝子構造と翻訳蛋白

⇔: 著者等が行っているRT-PCRによる遺伝子増幅部位
 ⇐⇒: 遺伝子型の解析に用いられている部位

臨床症状

HAVは糞口感染で伝播する。潜伏期は2～6週間であり、発熱、倦怠感などに続いて血清トランスアミナーゼ(ALTまたはGPT、ASTまたはGOT)が上昇する。食思不振、嘔吐などの消化器症状を伴うが、典型的な症例では黄疸、肝腫大、濃色尿、灰白色便などを認める。まれに劇症化して死亡する例を除き、1～2カ月の経過の後に回復する。トランスアミナーゼの正常化に3～6カ月を要する例や、正常化後に再上昇する例もあるが、慢性化せず、予後は良好である。

他の急性ウイルス性肝炎と比較して、A型肝炎の臨床症状での特徴は、発熱、頭痛、筋肉痛、腹痛など、いわゆる肝炎症状が強いことがあげられる。しかし、臨床症状や肝障害の改善は早い。肝機能検査では、他の急性肝炎の場合よりAST、ALT、ALP、LDHなどが高い傾向があるが、正常化するまでの期間は最も短い。他の血清検査ではIgMの増加、チモール混濁反応(TTT値)で判定される膠質反応の上昇が特徴的である。成人では小児に比べ、臨床症状も肝障害の程度も強い傾向がある。肝外合併症としては、急性腎不全、貧血、心筋障害などが知られている。

病原診断

A型肝炎の診断には血中のIgM-HAV抗体を確認する。固相化抗ヒトIgM抗体に患者血清を反応させ、さらにHAV抗原、標識HAV抗体を順次反応させる簡便なIgM捕捉キットが市販されている。IgM抗体は発症から約1カ月後にピークに達し、3～6カ月後には陰性となる。重症例ほどIgM抗体価は高く、発症6カ月以降にも検出される例がある。また、治癒が遷延化する例ではIgM抗体の持続期間も長い。

IgGおよびIgA抗体の測定は、特殊な血清疫学調査以外には使われていない。IgA抗体は感染後1～2年間、IgG抗体はさらに長期間持続するので、一般的な血清疫学調査、免疫グロブリン(ISG)やワクチン接種対象者の選択などには、全クラスのHAV抗体を測定する競合抑制ELISAなどが用いられる。なお、検出されるHAV抗体はウイルス粒子と結合する防御抗体であり、過去の感染またはワクチン免疫を意味する。

細胞培養によるウイルス分離には長期間が必要なため、診断目的には適さない。発症ごく初期の患者糞便中には、ELISAで測定可能な量(1ml当たり 10^6 粒子以上)のHAVが含まれることもある。ウイルスRNAを検出するRT-PCR法では、微量のHAVの検出が可能である。発症後2週間以内の糞便検体や血液中のウイルスRNAを抽出し、RT-PCR法でcDNAを増幅して遺伝子解析を行えば、感染経路の推定などに役立つ。リアルタイムPCR法も診断に適用されている(平成14年8月16日付、食監発第0816001号)。

治療・予防

原則として急性期には入院し、安静臥床とする。入院中は血液検査などで重症化、劇症化、肝外症状の有無を観察して、症状に応じた治療法がとられる。

予防としては、手洗いの励行などの一般的予防法に加え、ISG(抗体価の問題はあるが)やワクチンを用いた積極的予防法が推奨されている。ただし、ISGによる予防効果は数カ月以内である。したがって、ISGは患者家族や、患者と同一施設内でHAV感染の可能性の高い場合に緊急的に用いるのが適当である。

ワクチンとしては、培養細胞馴化株を精製してホルマリン処理した不活化ワクチンが世界的に使用されている。日本で開発されたワクチンは、アジュバントやチメロサルなどを含まない凍結乾燥品である。0、2～4週、24週経過後の3回のスケジュールで皮下または筋肉内接種を行えば、抗体獲得率はほぼ100%であり、防御効果は少なくとも数年以上続く。

感染症法における取り扱い

2003年11月の感染症の改正により、A型肝炎はE型肝炎とともに独立した4類感染症に定められた。A型肝炎を診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出る。報告のための基準は以下の通りである。

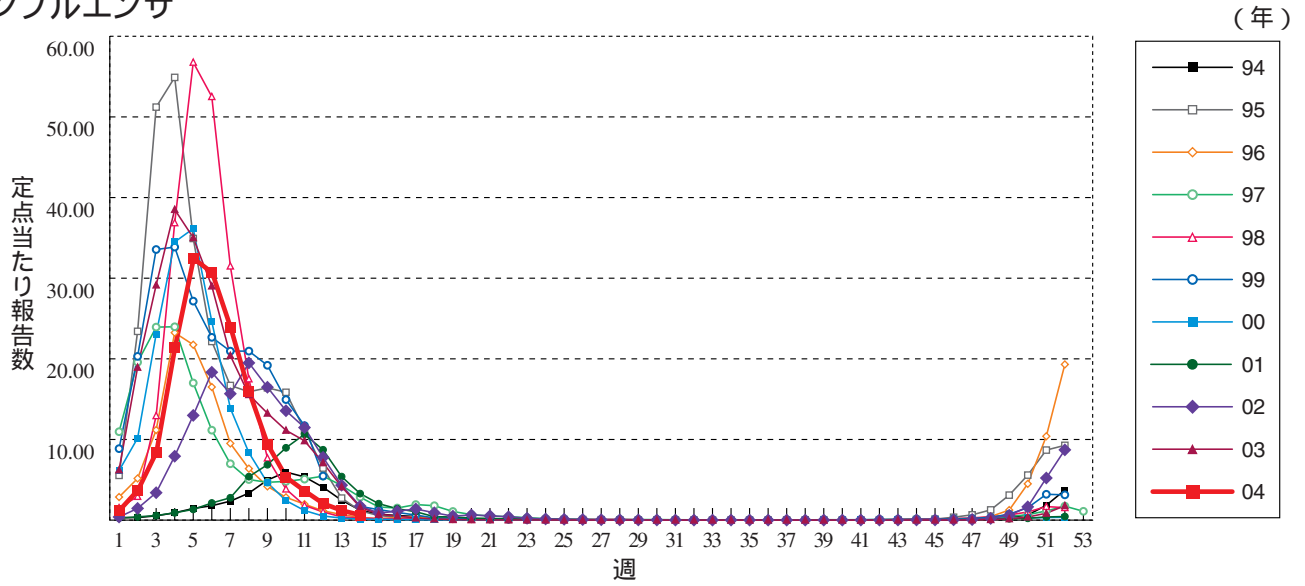
診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの

- ・血清抗体の検出
例、特異的IgM抗体が陽性のもの
- ・病原体の遺伝子の検出
例、RT-PCR法による遺伝子の検出

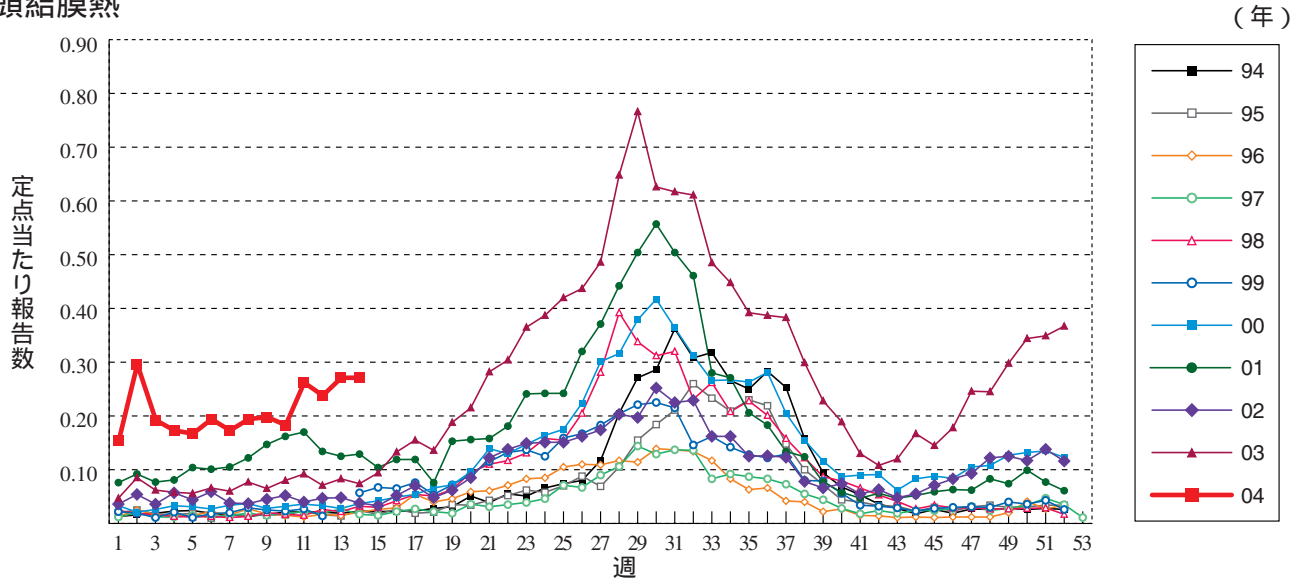
(国立感染症研究所ウイルス第二部 米山徹夫)

グラフ総覧(14週)

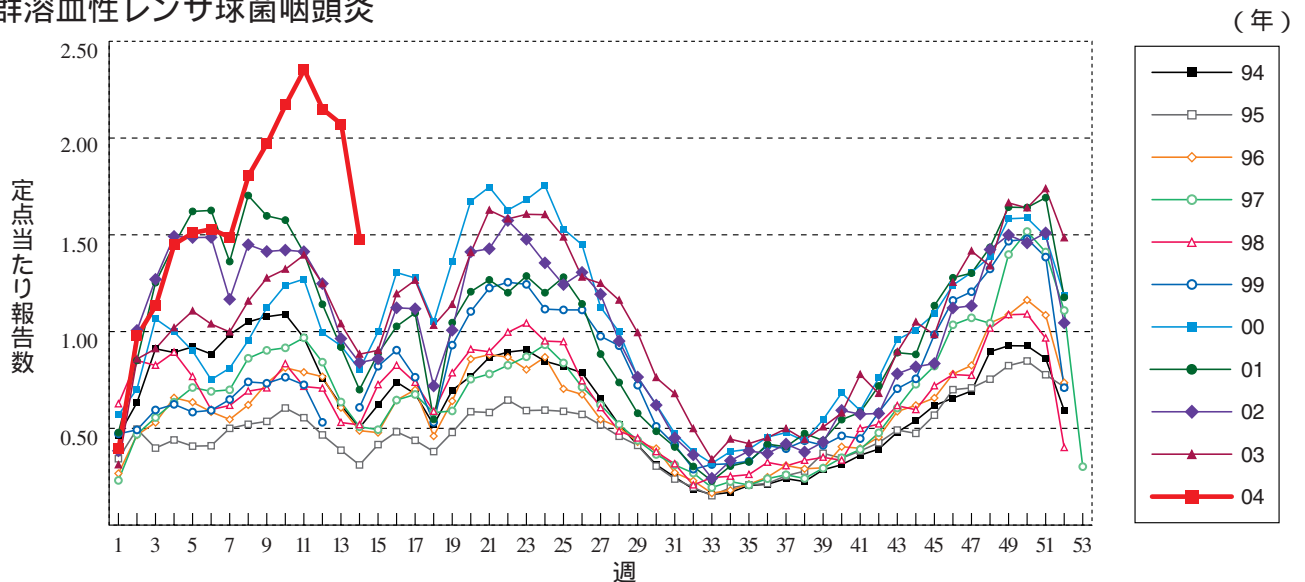
インフルエンザ



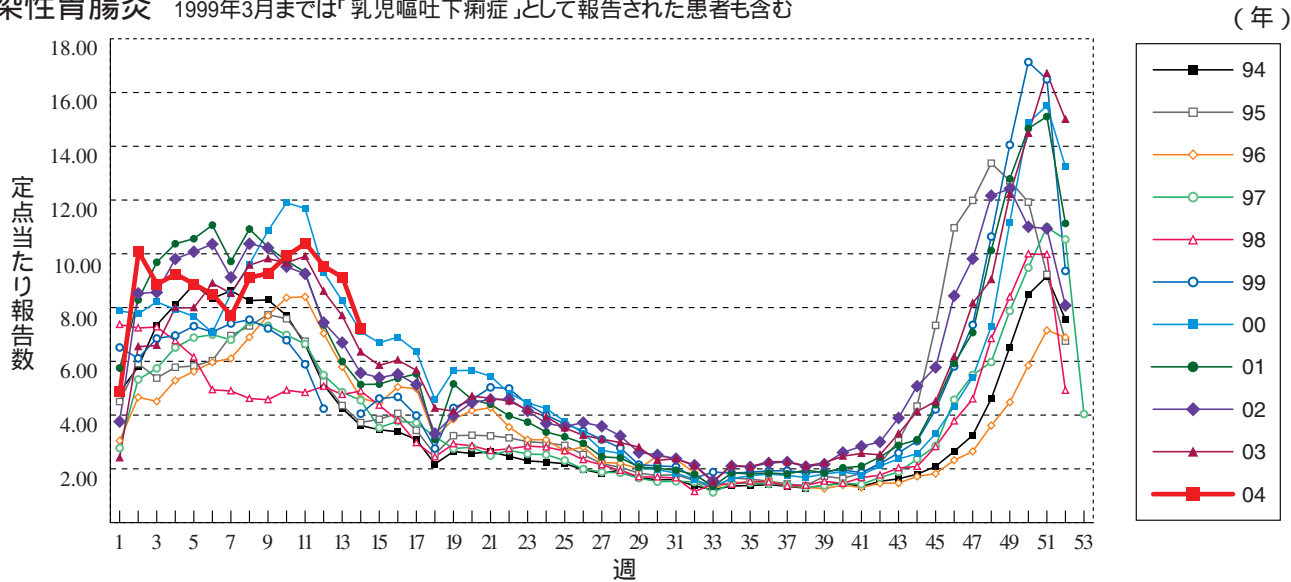
咽頭結膜熱



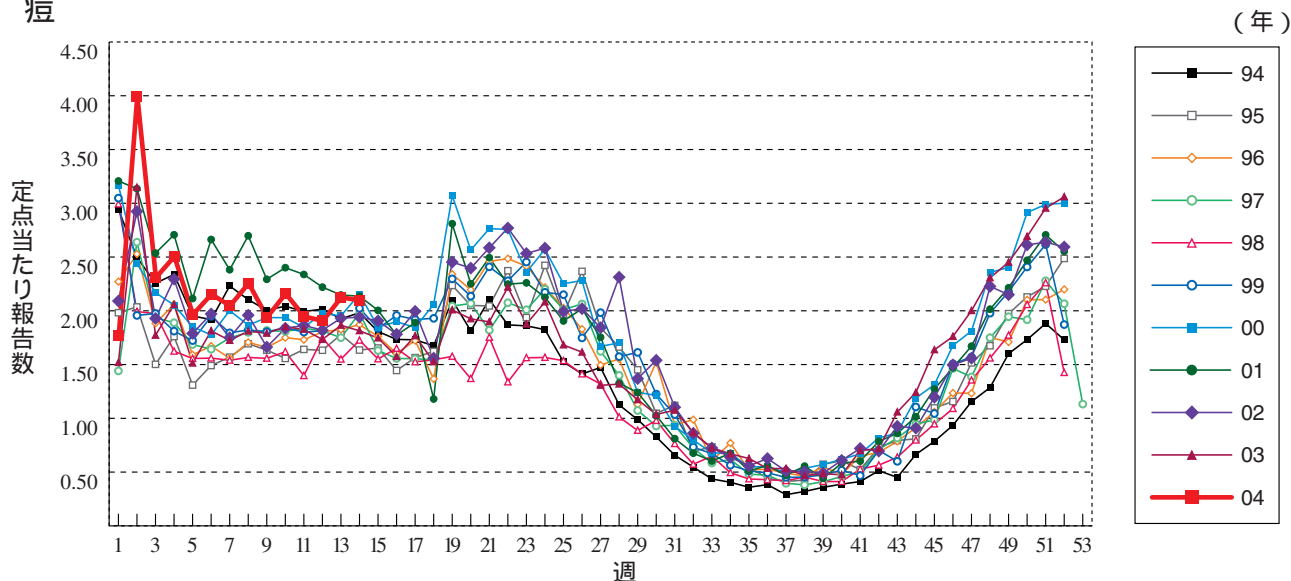
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



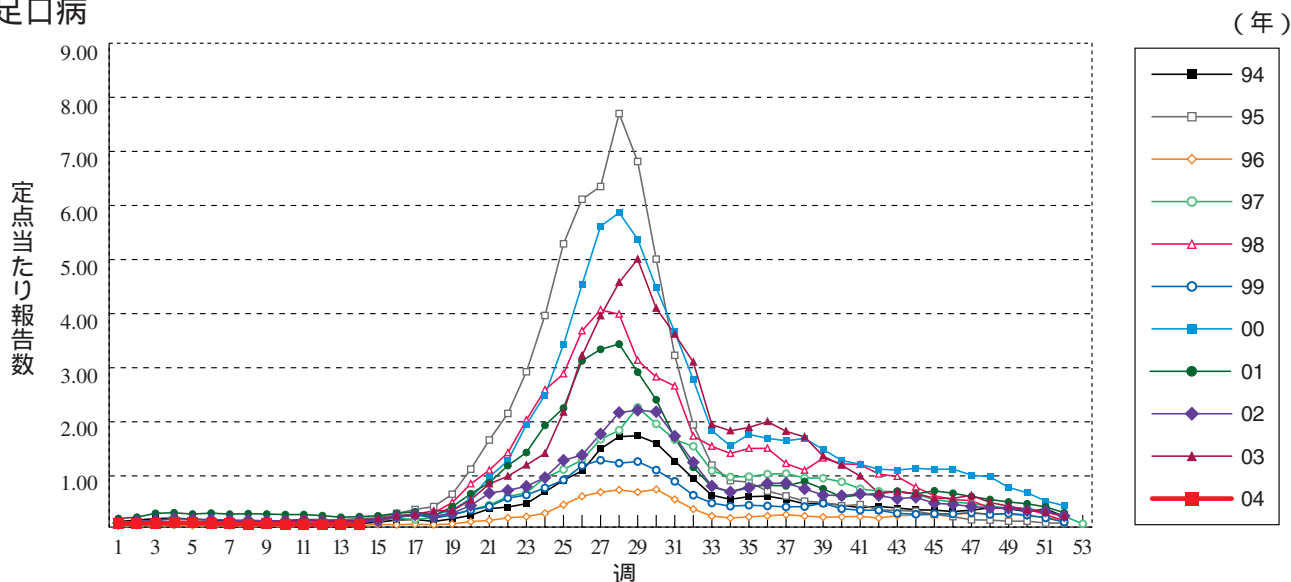
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



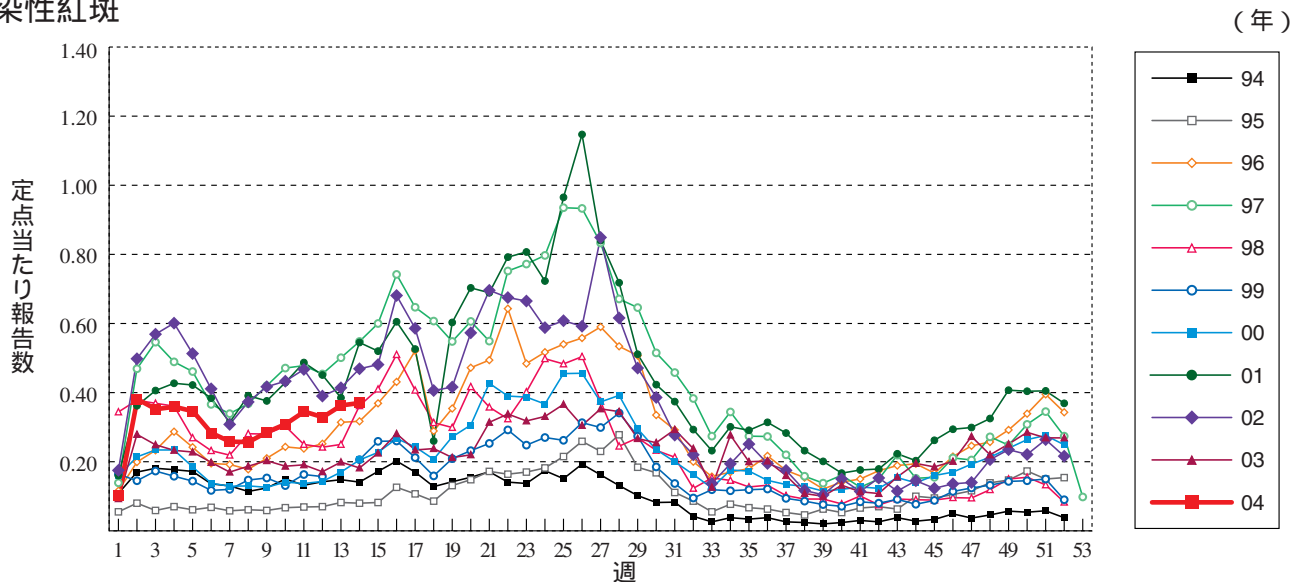
水痘



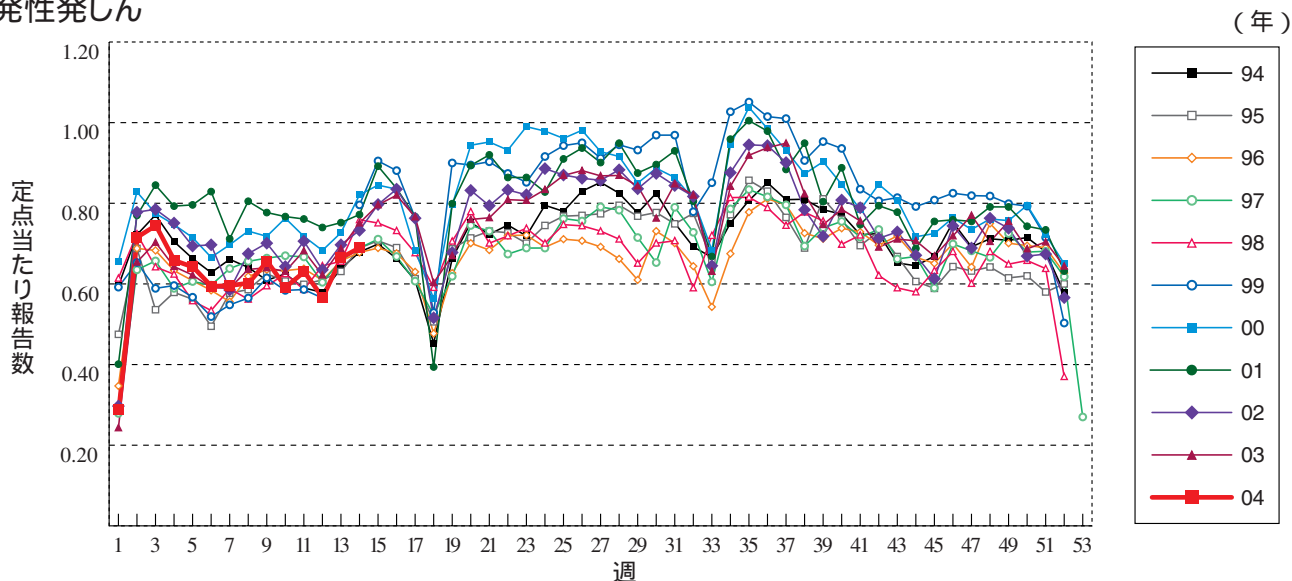
手足口病



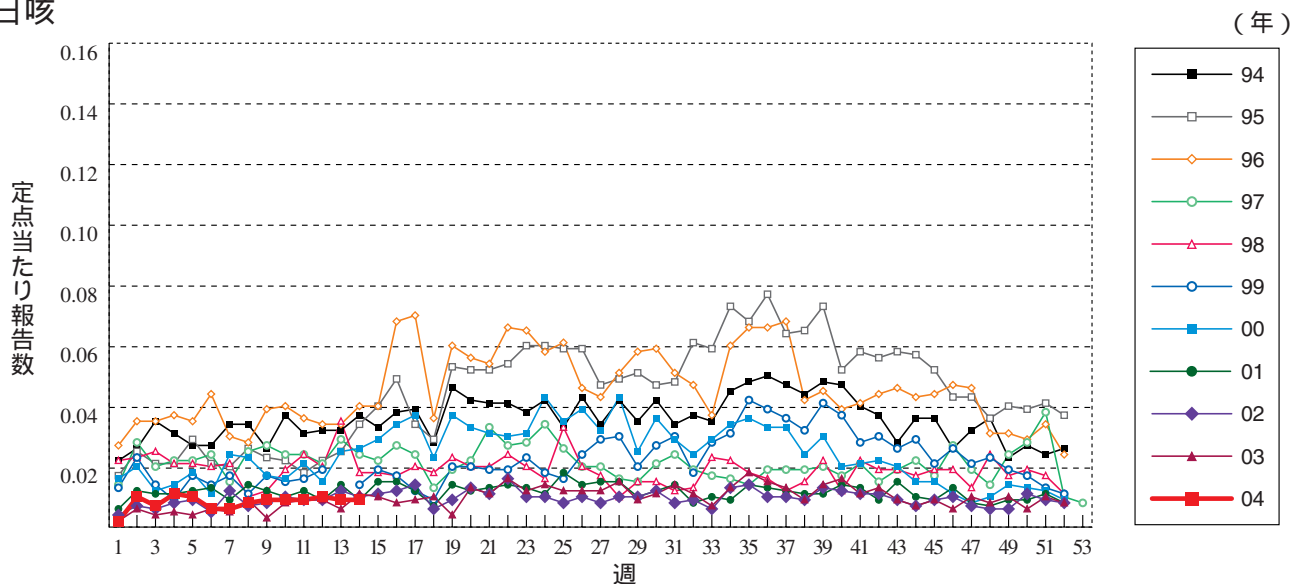
伝染性紅斑



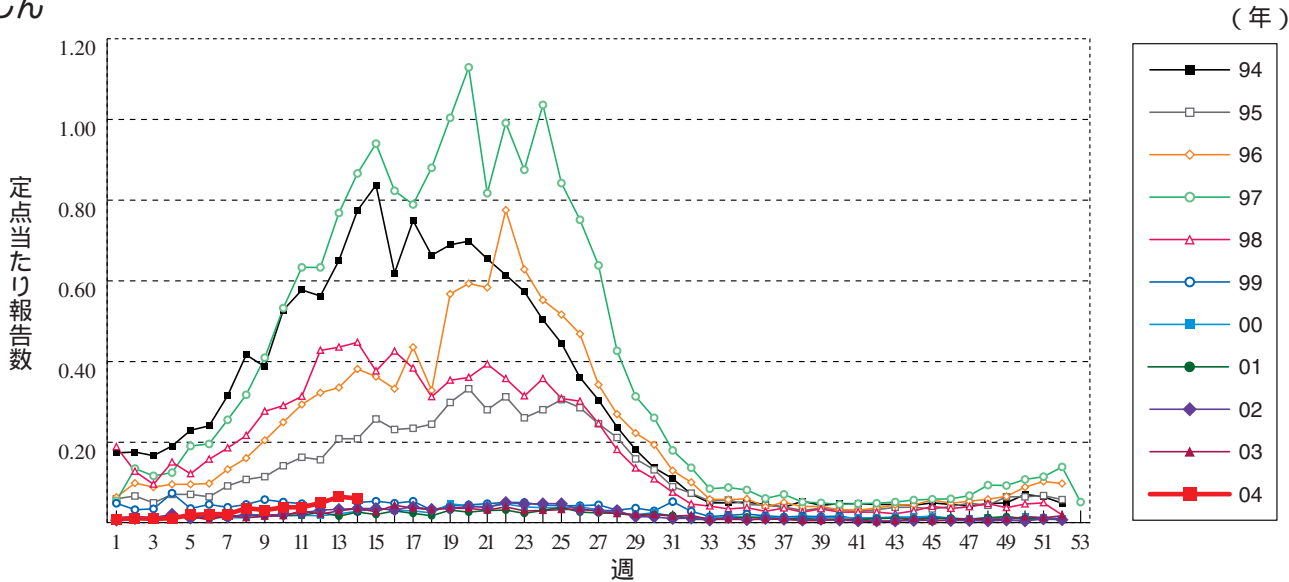
突発性発しん



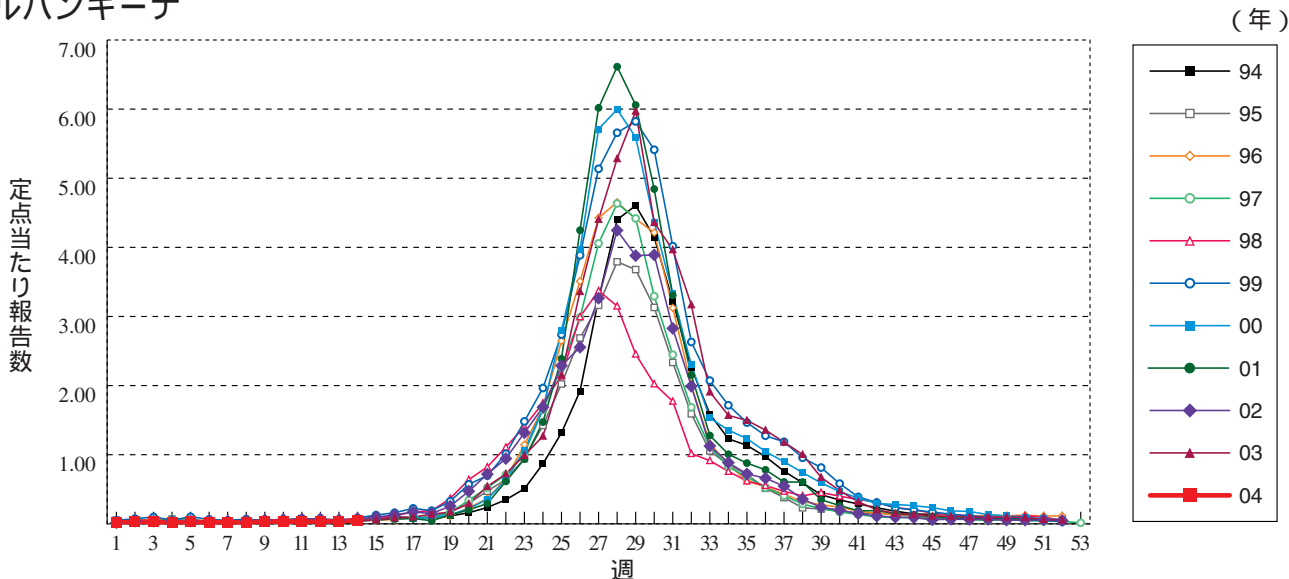
百日咳



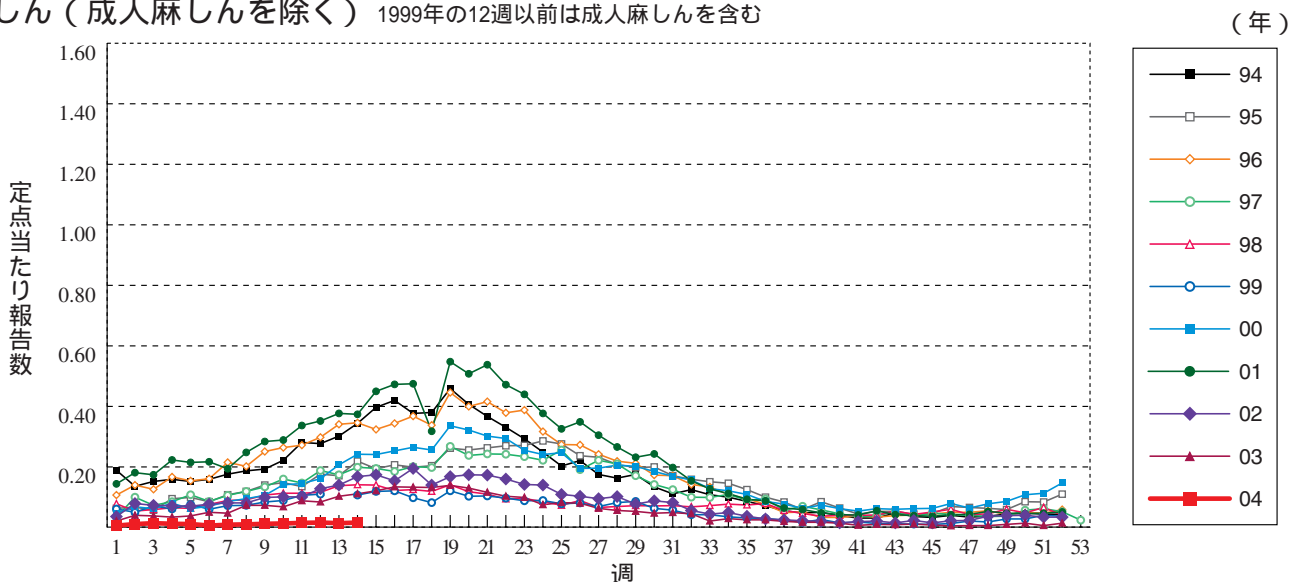
風しん



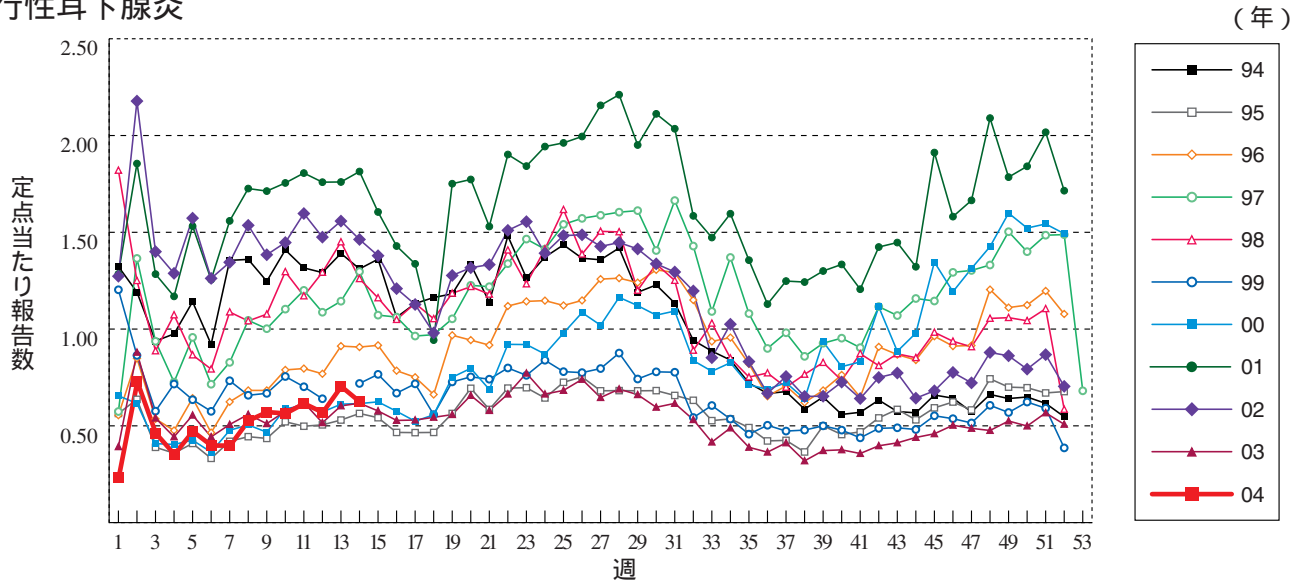
ヘルパンギーナ



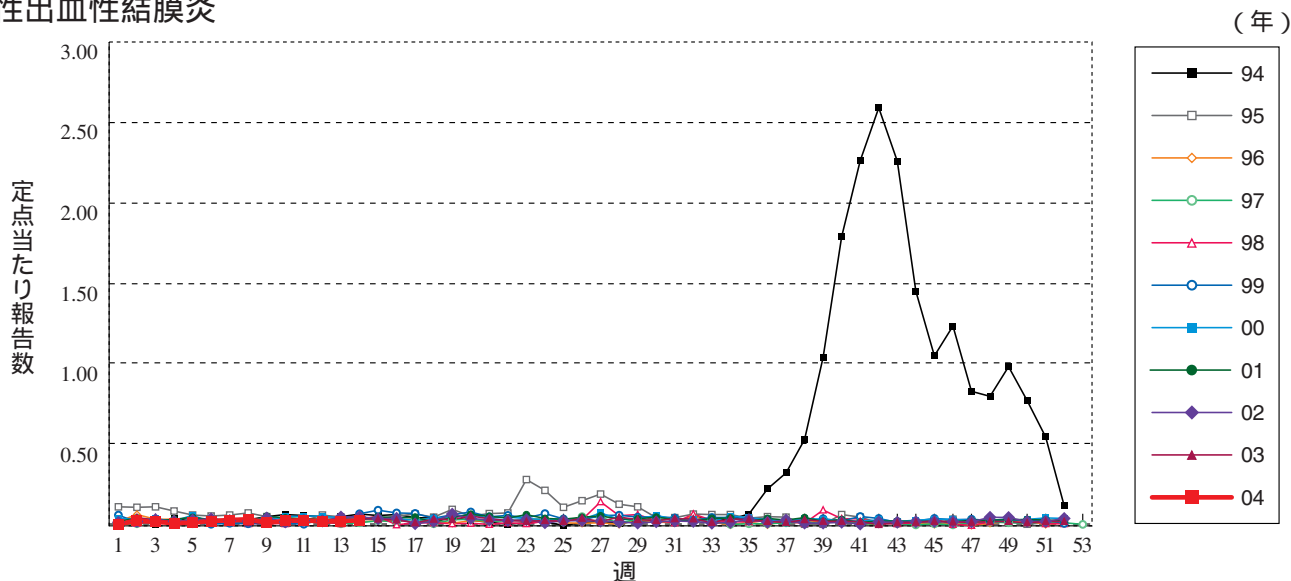
麻疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



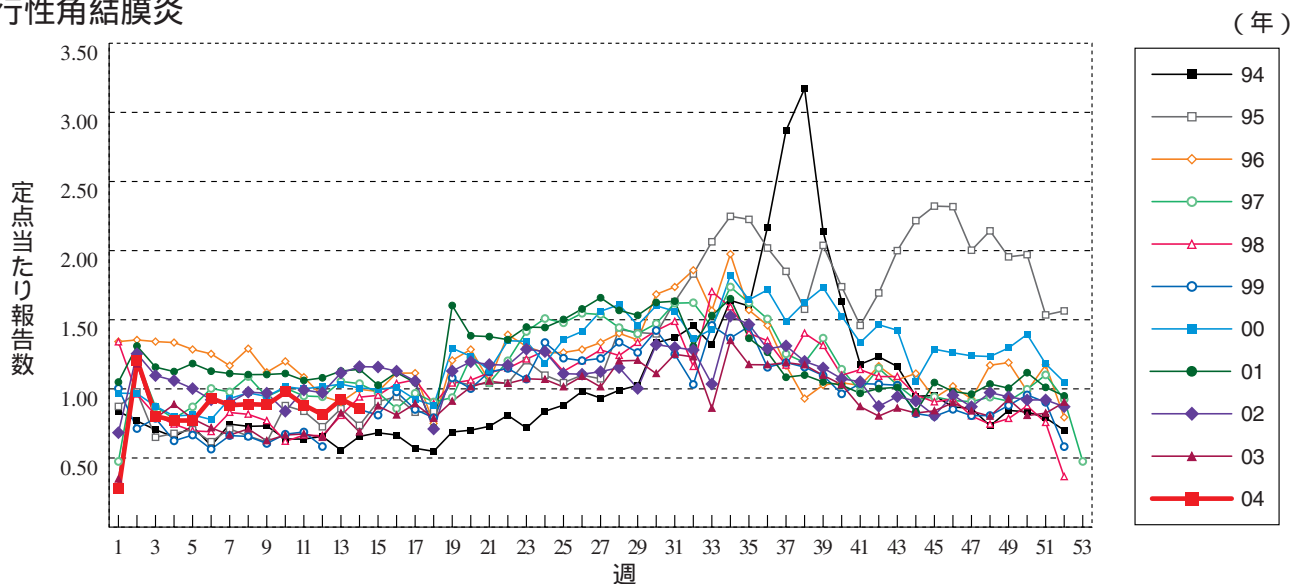
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

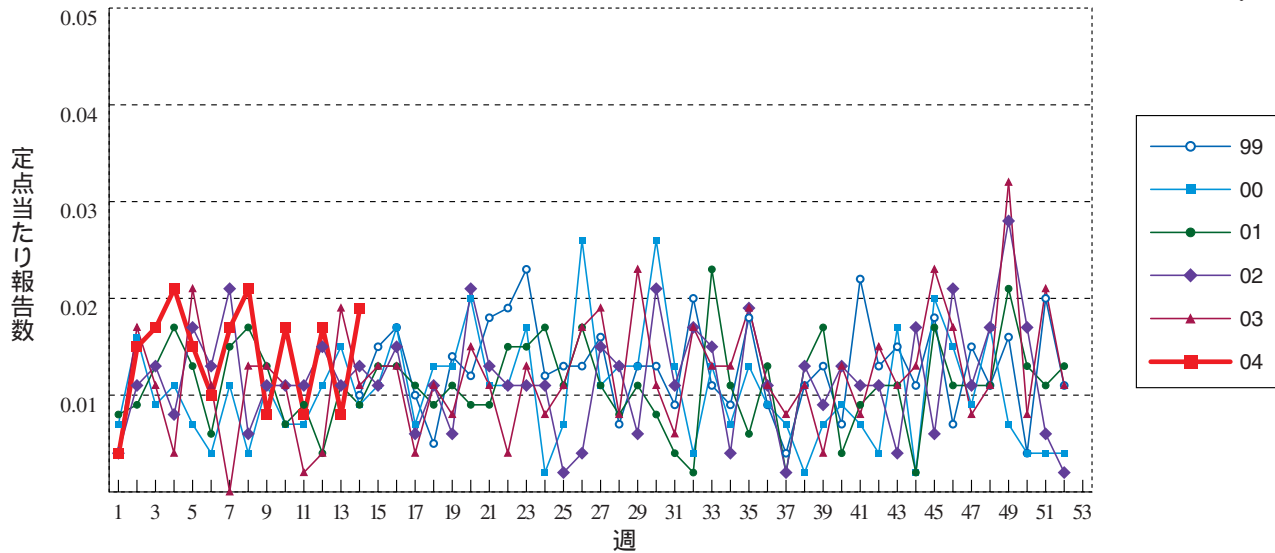


流行性角結膜炎



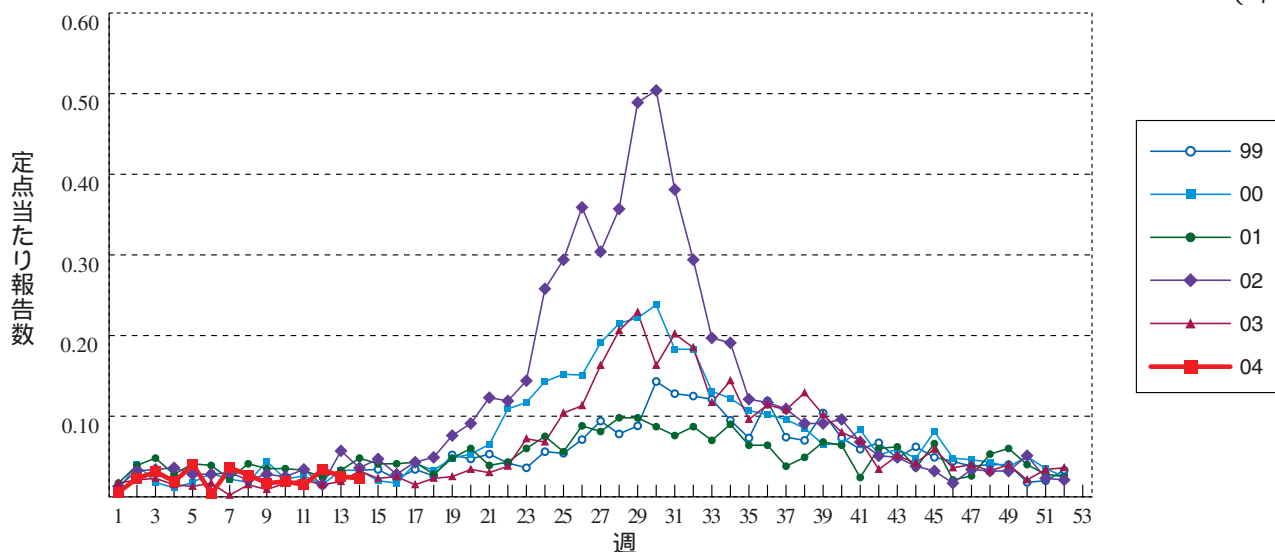
細菌性髄膜炎

(年)



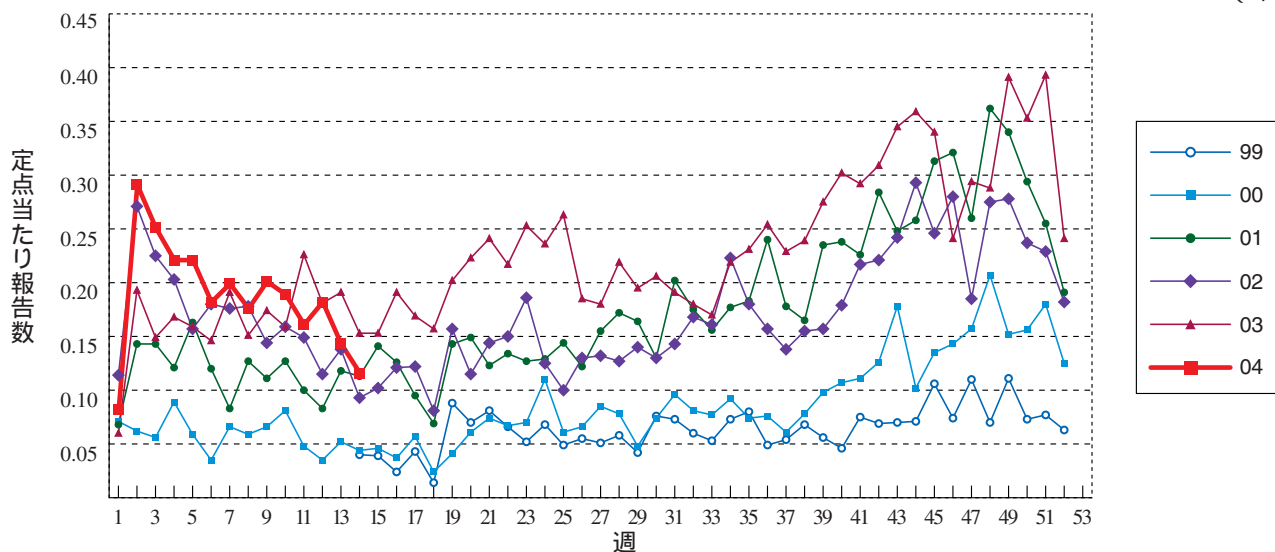
無菌性髄膜炎

(年)



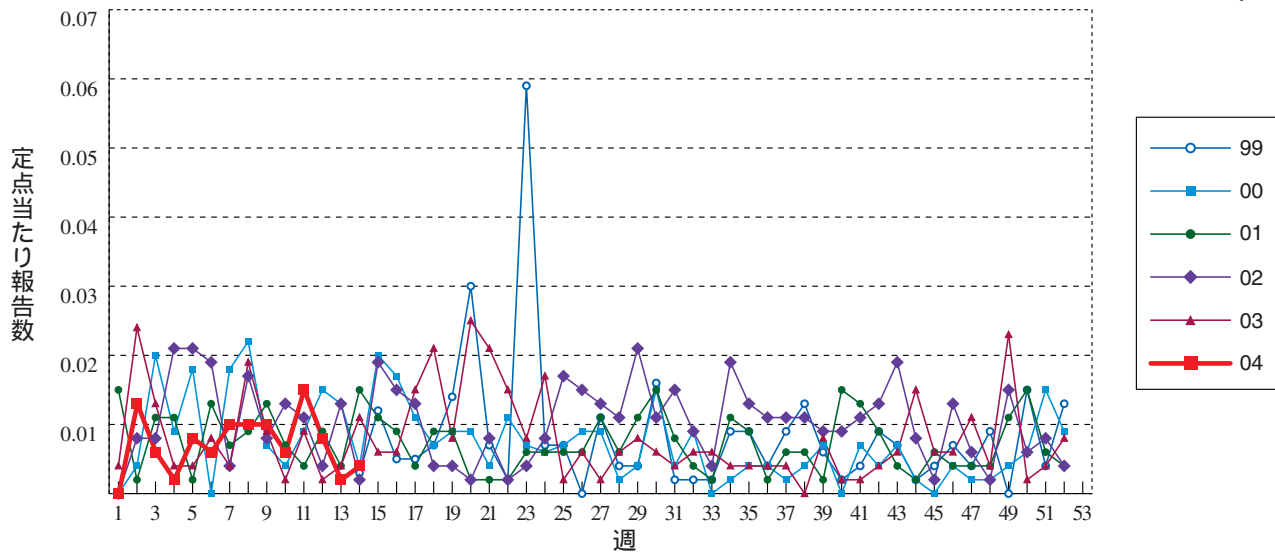
マイコプラズマ肺炎

(年)



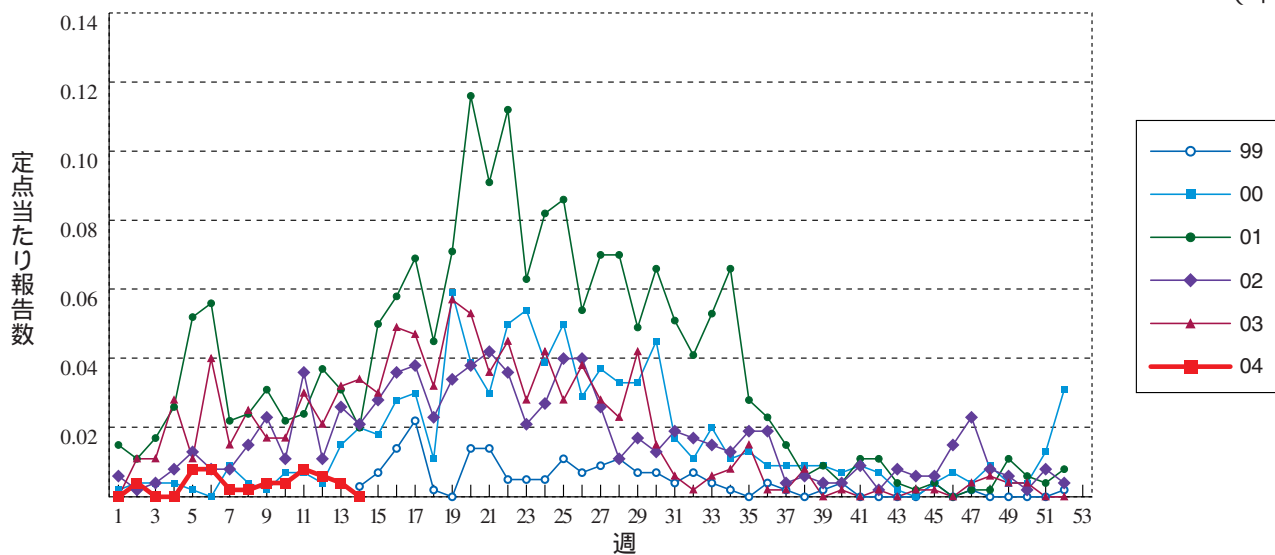
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻しん

(年)





14週 of データ

注) 表中の報告数は4月8日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

平成16年14週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	10	93	1	6	-	6
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	1
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	28	-	1	-	1
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	2
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	1	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	10	-	2	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年14週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	3	109	6	140	-	9	-	-	-	6	-	-	2	61
北海道	-	-	-	-	-	3	-	4	-	9	-	-	-	-	-	-	-	1
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
千葉県	-	-	-	-	-	5	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
東京都	-	-	-	-	-	18	1	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
神奈川県	-	-	-	-	-	2	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
静岡県	-	-	-	-	-	1	-	9	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	4	1	9	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大阪府	-	-	-	-	1	12	-	11	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
兵庫県	-	-	-	-	-	4	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
広島県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	-	-	-	1	3	1	7	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
佐賀県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	1	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年14週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプトスボルジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	2	-	-	-	1	3	45	1	14	8	222	-	1	4	17	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	1	1	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	7	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	1	2	-	4	5	90	-	-	2	6	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	13	-	1	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	10	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	14	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	1	27	-	-	-	3	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	1	6	-	-	1	2	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年14週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風しん 症候群		炭 疽		つつが虫病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		梅 毒		破 傷 風	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	8	-	2	-	-	1	51	-	4	-	-	-	1	4	114	-	11
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1
茨城県	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
東京都	-	2	-	1	-	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-	16	-	1
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	7	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	1	25	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年14週

	バンコマイシン 耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス 肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発しんチフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	1	1	25
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
秋田県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	2
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年14週

	重症急性 呼吸器症候群		痘 そ う		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)		A型肝炎		高病原性鳥 インフルエンザ		サ ル 痘		ニバウイルス 感染症		ポツリヌス症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	6	-	-	1	50	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年14週

	野 兎 病		リッサウイルス感染症		レプトスピラ症		急性脳炎		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	1	2	11	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

全数把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日: 平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照)により、全数把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

表でみる「重症急性呼吸器症候群」以降の14の疾患は新システムでの追加疾患、および変更疾患(「乳児ボツリヌス症」「ボツリヌス症」「定点疾患「急性脳炎」全数疾患「急性脳炎」)です。「ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)」は平成14年11月に追加された疾患です。

旧システムにおける「ウイルス性肝炎」に含まれていた「E型肝炎」「A型肝炎」が独立した疾患となり、新システムにおける「ウイルス性肝炎」はE型肝炎、A型肝炎を除く肝炎となります。

注)表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成16年14週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	2953	0.63	824	0.27	4493	1.48	22020	7.24	6380	2.10	131	0.04	1125	0.37	2100	0.69	26	0.01
北海道	306	1.35	34	0.24	255	1.78	393	2.75	245	1.71	8	0.06	51	0.36	77	0.54	1	0.01
青森県	147	2.30	8	0.19	69	1.64	179	4.26	73	1.74	1	0.02	4	0.10	31	0.74	-	-
岩手県	19	0.31	2	0.05	38	1.00	89	2.34	36	0.95	-	-	15	0.39	25	0.66	-	-
宮城県	59	0.65	13	0.22	164	2.78	434	7.36	141	2.39	-	-	28	0.47	58	0.98	-	-
秋田県	53	0.96	7	0.20	81	2.31	208	5.94	45	1.29	1	0.03	1	0.03	25	0.71	-	-
山形県	31	0.65	14	0.47	93	3.10	266	8.87	42	1.40	1	0.03	33	1.10	29	0.97	-	-
福島県	68	0.85	10	0.21	65	1.35	410	8.54	65	1.35	2	0.04	7	0.15	43	0.90	-	-
茨城県	10	0.09	15	0.20	219	2.96	305	4.12	141	1.91	3	0.04	8	0.11	33	0.45	-	-
栃木県	19	0.27	1	0.02	58	1.26	321	6.98	81	1.76	2	0.04	8	0.17	38	0.83	1	0.02
群馬県	26	0.26	3	0.05	89	1.44	320	5.16	100	1.61	2	0.03	33	0.53	31	0.50	1	0.02
埼玉県	29	0.11	37	0.23	343	2.17	1241	7.85	363	2.30	1	0.01	77	0.49	149	0.94	2	0.01
千葉県	13	0.06	37	0.28	252	1.94	998	7.68	368	2.83	11	0.08	80	0.62	93	0.72	1	0.01
東京都	27	0.15	19	0.13	159	1.12	820	5.77	172	1.21	-	-	81	0.57	59	0.42	-	-
神奈川県	27	0.08	73	0.35	301	1.46	1347	6.54	442	2.15	3	0.01	128	0.62	158	0.77	1	0.00
新潟県	83	0.84	42	0.70	258	4.30	580	9.67	113	1.88	3	0.05	72	1.20	43	0.72	-	-
富山県	25	0.52	34	1.17	76	2.62	404	13.93	82	2.83	2	0.07	19	0.66	9	0.31	-	-
石川県	60	1.25	3	0.10	59	2.03	324	11.17	85	2.93	9	0.31	22	0.76	20	0.69	-	-
福井県	50	1.56	19	0.86	75	3.41	446	20.27	58	2.64	2	0.09	13	0.59	10	0.45	1	0.05
山梨県	2	0.05	1	0.04	39	1.56	69	2.76	34	1.36	-	-	7	0.28	5	0.20	-	-
長野県	53	0.61	5	0.09	88	1.60	469	8.53	61	1.11	2	0.04	13	0.24	35	0.64	-	-
岐阜県	61	0.73	28	0.53	47	0.89	208	3.92	121	2.28	-	-	17	0.32	23	0.43	1	0.02
静岡県	52	0.38	17	0.20	101	1.17	650	7.56	265	3.08	2	0.02	36	0.42	66	0.77	-	-
愛知県	204	1.05	62	0.34	212	1.16	966	5.31	315	1.73	7	0.04	92	0.51	121	0.66	2	0.01
三重県	23	0.32	10	0.22	68	1.51	421	9.36	67	1.49	1	0.02	10	0.22	46	1.02	-	-
滋賀県	18	0.35	1	0.03	32	0.97	219	6.64	55	1.67	1	0.03	9	0.27	12	0.36	-	-
京都府	30	0.24	3	0.04	57	0.75	572	7.53	94	1.24	2	0.03	4	0.05	34	0.45	-	-
大阪府	35	0.12	23	0.12	159	0.82	1214	6.23	317	1.63	7	0.04	43	0.22	128	0.66	6	0.03
兵庫県	91	0.46	23	0.18	119	0.93	1048	8.19	308	2.41	27	0.21	55	0.43	91	0.71	3	0.02
奈良県	7	0.13	22	0.63	33	0.94	312	8.91	53	1.51	2	0.06	3	0.09	27	0.77	-	-
和歌山県	7	0.14	14	0.45	19	0.61	247	7.97	60	1.94	1	0.03	16	0.52	31	1.00	1	0.03
鳥取県	9	0.31	6	0.32	65	3.42	210	11.05	36	1.89	-	-	2	0.11	9	0.47	-	-
島根県	48	1.26	8	0.35	11	0.48	155	6.74	46	2.00	-	-	3	0.13	15	0.65	-	-
岡山県	28	0.33	10	0.19	21	0.39	466	8.63	108	2.00	1	0.02	8	0.15	29	0.54	-	-
広島県	131	1.09	45	0.60	78	1.04	930	12.40	121	1.61	1	0.01	17	0.23	57	0.76	2	0.03
山口県	129	1.84	21	0.43	66	1.35	522	10.65	126	2.57	-	-	1	0.02	49	1.00	1	0.02
徳島県	6	0.16	16	0.70	30	1.30	226	9.83	34	1.48	3	0.13	3	0.13	22	0.96	-	-
香川県	29	0.57	6	0.19	23	0.72	112	3.50	71	2.22	-	-	9	0.28	14	0.44	-	-
愛媛県	27	0.42	23	0.59	63	1.62	372	9.54	126	3.23	-	-	5	0.13	43	1.10	-	-
高知県	14	0.29	3	0.10	48	1.55	153	4.94	82	2.65	-	-	6	0.19	14	0.45	-	-
福岡県	281	1.42	15	0.13	201	1.68	1150	9.58	378	3.15	7	0.06	24	0.20	86	0.72	2	0.02
佐賀県	15	0.38	7	0.30	31	1.35	275	11.96	64	2.78	3	0.13	2	0.09	24	1.04	-	-
長崎県	115	1.64	8	0.18	24	0.55	372	8.45	92	2.09	2	0.05	16	0.36	25	0.57	-	-
熊本県	58	0.72	6	0.12	51	1.04	373	7.61	121	2.47	3	0.06	2	0.04	44	0.90	-	-
大分県	191	3.29	8	0.22	40	1.11	401	11.14	79	2.19	-	-	22	0.61	25	0.69	-	-
宮崎県	88	1.49	46	1.28	75	2.08	432	12.00	195	5.42	1	0.03	9	0.25	40	1.11	-	-
鹿児島県	60	0.63	16	0.28	22	0.38	344	5.93	178	3.07	-	-	6	0.10	38	0.66	-	-
沖縄県	89	1.53	-	-	16	0.47	47	1.38	121	3.56	7	0.21	5	0.15	16	0.47	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成16年14週

	風しん		ヘルパンギーナ		麻しん (成人麻しんを除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ 肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	183	0.06	155	0.05	45	0.01	1898	0.62	22	0.03	546	0.86	9	0.02	11	0.02	55	0.12
北海道	-	-	-	-	-	-	85	0.59	-	-	22	0.76	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	7	0.17	-	-	24	0.57	-	-	7	0.64	-	-	-	-	1	0.17
岩手県	-	-	4	0.11	-	-	20	0.53	3	0.25	5	0.42	1	0.05	-	-	-	-
宮城県	9	0.15	-	-	-	-	34	0.58	2	0.18	6	0.55	-	-	1	0.08	2	0.17
秋田県	-	-	2	0.06	-	-	2	0.06	-	-	2	0.29	-	-	-	-	2	0.29
山形県	2	0.07	1	0.03	-	-	9	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	8	0.80
福島県	2	0.04	2	0.04	1	0.02	14	0.29	-	-	11	0.92	-	-	-	-	2	0.29
茨城県	5	0.07	-	-	2	0.03	21	0.28	-	-	38	2.38	-	-	-	-	-	-
栃木県	8	0.17	2	0.04	-	-	5	0.11	3	0.25	15	1.25	-	-	1	0.14	-	-
群馬県	45	0.73	2	0.03	3	0.05	42	0.68	1	0.07	33	2.36	-	-	1	0.10	-	-
埼玉県	19	0.12	8	0.05	3	0.02	155	0.98	1	0.03	20	0.54	-	-	-	-	-	-
千葉県	10	0.08	-	-	1	0.01	93	0.72	4	0.12	39	1.15	-	-	-	-	-	-
東京都	11	0.08	4	0.03	3	0.02	33	0.23	-	-	14	1.00	-	-	-	-	3	0.12
神奈川県	11	0.05	6	0.03	2	0.01	112	0.54	1	0.02	48	1.14	-	-	-	-	-	-
新潟県	7	0.12	1	0.02	3	0.05	53	0.88	1	0.11	1	0.11	1	0.08	3	0.25	2	0.17
富山県	-	-	4	0.14	-	-	12	0.41	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.20
石川県	-	-	1	0.03	-	-	7	0.24	-	-	3	0.43	1	0.20	1	0.20	1	0.20
福井県	1	0.05	-	-	-	-	7	0.32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	2	0.08	-	-	5	1.67	1	0.10	-	-	1	0.10
長野県	-	-	-	-	-	-	14	0.25	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	1	0.02	1	0.02	38	0.72	-	-	12	1.00	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	1	0.01	1	0.01	96	1.12	-	-	20	1.00	-	-	1	0.10	1	0.10
愛知県	1	0.01	8	0.04	4	0.02	191	1.05	1	0.03	14	0.40	1	0.08	-	-	3	0.23
三重県	-	-	1	0.02	-	-	12	0.27	1	0.08	10	0.83	-	-	-	-	1	0.11
滋賀県	3	0.09	-	-	-	-	10	0.30	-	-	4	0.57	-	-	-	-	2	0.29
京都府	1	0.01	5	0.07	3	0.04	30	0.39	-	-	6	0.32	-	-	-	-	-	-
大阪府	5	0.03	18	0.09	3	0.02	128	0.66	1	0.02	18	0.37	1	0.07	-	-	-	-
兵庫県	-	-	4	0.03	4	0.03	151	1.18	-	-	24	0.69	-	-	-	-	1	0.08
奈良県	-	-	-	-	-	-	14	0.40	-	-	4	0.44	-	-	-	-	4	0.67
和歌山県	-	-	3	0.10	1	0.03	25	0.81	-	-	5	1.25	1	0.09	-	-	3	0.27
鳥取県	-	-	-	-	-	-	7	0.37	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	1	0.04	-	-	8	0.35	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	2	0.04	-	-	29	0.54	-	-	7	0.58	-	-	-	-	3	0.60
広島県	-	-	10	0.13	3	0.04	44	0.59	-	-	27	1.35	1	0.05	1	0.05	-	-
山口県	-	-	2	0.04	-	-	98	2.00	-	-	8	0.89	-	-	-	-	5	0.56
徳島県	-	-	-	-	5	0.22	7	0.30	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.03	3	0.09	1	0.03	9	0.28	-	-	4	1.33	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	2	0.05	-	-	18	0.46	-	-	7	1.00	-	-	-	-	1	0.17
高知県	-	-	-	-	-	-	17	0.55	-	-	10	3.33	-	-	-	-	3	0.33
福岡県	5	0.04	21	0.18	-	-	100	0.83	-	-	18	0.69	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	3	0.13	-	-	30	1.30	-	-	5	1.25	-	-	-	-	1	0.17
長崎県	-	-	2	0.05	1	0.02	6	0.14	3	0.38	6	0.75	1	0.08	-	-	2	0.17
熊本県	1	0.02	12	0.24	-	-	21	0.43	-	-	11	1.22	-	-	2	0.13	1	0.07
大分県	18	0.50	5	0.14	-	-	18	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.03	2	0.06	-	-	30	0.83	-	-	14	3.50	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	16	0.28	4	0.07	-	-	14	0.24	-	-	13	1.86	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	1	0.03	-	-	3	0.09	-	-	21	2.10	-	-	-	-	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成16年14週

	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻しん		RSウイルス 感染症
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	
総 数	2	0.00	-	-	56
北海道	-	-	-	-	2
青森県	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	...
宮城県	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	2
福島県	-	-	-	-	4
茨城県	-	-	-	-	...
栃木県	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	...
埼玉県	-	-	-	-	...
千葉県	1	0.08	-	-	-
東京都	-	-	-	-	4
神奈川県	-	-	-	-	4
新潟県	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	...
長野県	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	...
愛知県	-	-	-	-	6
三重県	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	...
兵庫県	-	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	...
和歌山県	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	...
島根県	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.20	-	-	...
広島県	-	-	-	-	5
山口県	-	-	-	-	...
徳島県	-	-	-	-	...
香川県	-	-	-	-	...
愛媛県	-	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	6
福岡県	-	-	-	-	13
佐賀県	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	...
熊本県	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	...
宮崎県	-	-	-	-	...
鹿児島県	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	...

定点把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日:平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照)により、定点把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

改正により「RSウイルス感染症」が追加されましたが、ゼロ報告も含めて報告自体がなされていない都道府県(…)が多く見られ、その報告はまだ十分ではありません。そのため、「感染症週報」の情報還元としては、報告数のみの掲載とします。宜しく御理解ください。

感染症週報 第6巻 第14号 平成16年4月16日発行
発行: 国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局: 国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
T E L : 03-5285-1111
F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
< 国立感染症研究所 感染症情報センター >
<http://www.mhlw.go.jp/>
< 厚生労働省 >
<http://www.forth.go.jp/>
< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上に訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。